

平成28年度

教授要項

シラバス (syllabus)



香川県立保健医療大学大学院

THE GRADUATE SCHOOL OF KAGAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

目 次

1	授業科目表	
	看護学分野研究コース・臨床検査学分野	1
	看護学分野専門看護師コース	3
2	専攻共通科目	5
3	看護学分野専門共通科目	11
4	基盤開発看護学領域科目	21
5	健康生活支援看護学領域科目	25
6	次世代育成看護学領域科目	35
7	専攻分野共通科目	43
	実習科目	51
8	臨床検査学分野専門共通科目	53
9	病態機能検査学領域科目	59
10	病因解析検査学領域科目	67
11	保健医療学特別研究	75
12	課題研究	101

授業科目表【看護学分野研究コース、臨床検査学分野】

科目区分		科目名	担当教員	配当年次	単位数		修了要件	ページ	
分野	領域				必修	選択			
専攻共通科目	専攻共通科目	健康増進科学論	樋本尚志	1前	2		8単位以上	5	
		保健医療福祉論	佐藤 功、國方弘子、西谷清美	1前	2			6	
		チーム医療特論	國方弘子、片山陽子、多田達史	1後	2			7	
		疫学・統計学	辻よしみ、平尾智広	1前		2		8	
		生命・医療倫理論	塩田敦子	1後		2		9	
		英文献講読	ジャンジュア ナジマ、古山達雄、山主智子	1前		2		10	
		小計(6科目)						6	6
看護学分野	専門共通科目	健康心理看護学特論	辻よしみ、片山陽子	1後		2	臨床検査学分野専門共通科目を含め 8単位以上	11	
		健康生活支援方法論	柴 玲子、舟越和代、山主智子	1前		2		12	
		家族発達支援方法論	松村恵子、野口純子、中村丈洋	1後		2		13	
		看護理論	當日雅代	1前		2		14	
		看護倫理	堀美紀子、國方弘子、土岐弘美、辻上佳輝	1前		2		15	
		看護研究方法論	松村恵子、吉本知恵	1前		2		16	
		看護教育学特論	平木民子	1後		2		17	
		看護管理学特論	久保田聰美	1後		2		18	
		看護コンサルテーション論	高嶋伸子、土岐弘美	1後		2		19	
	小計(9科目)					0	18		
	基礎開発看護学	基礎開発看護学	看護人材育成学特論	平木民子	1前		2	4単位以上	21
			看護人材育成学演習	平木民子	1後		2		22
			看護技術学特論	松村千鶴	1前		2		23
			看護技術学演習	松村千鶴	1後		2		24
			小計(4科目)						0
	健康生活支援看護学	健康生活支援看護学	地域精神看護学特論	國方弘子	1前		2	4単位以上	25
			地域精神看護学演習	國方弘子	1後		2		26
			公衆衛生看護学特論	高嶋伸子、合田加代子	1前		2		27
			公衆衛生看護学演習	高嶋伸子、辻よしみ	1後		2		28
療養支援看護学特論			内海知子	1前		2	29		
療養支援看護学演習			内海知子	1後		2	30		
老年看護学特論			吉本知恵	1前		2	31		
老年看護学演習			吉本知恵	1後		2	32		
在宅看護学特論			片山陽子	1前		2	33		
在宅看護学演習			片山陽子	1後		2	34		
小計(10科目)					0	20			
次世代育成看護学	次世代育成看護学	育成支援看護学特論	松村恵子	1前		2	4単位以上	35	
		育成支援看護学演習	松村恵子	1後		2		36	
		子ども発達支援看護学特論	舟越和代	1前		2		37	
		子ども発達支援看護学演習	舟越和代	1後		2		38	
		女性健康看護学特論	柴 玲子	1前		2		39	
		女性健康看護学演習	柴 玲子	1後		2		40	
		助産実践学特論	野口純子、竹内美由紀	1前		2		41	
		助産実践学演習	野口純子、竹内美由紀	1後		2		42	
		小計(8科目)						0	16

科目区分		科目名	担当教員	配当年次	単位数		修了要件	ページ	
分野	領域				必修	選択			
臨床検査学分野	専門共通科目	検査総合管理学	中村丈洋、多田達史	1後		2	看護学分野専門共通科目を含め	53	
		医療情報管理学	立石謹也	1後		2		54	
		環境衛生論	奥田 潤、眞鍋紀子、須那 滋	1前		2		55	
		食理学	立石謹也、山主智子	1前		1		56	
		検査研究方法論	加太英明、多田達史	1後		1		57	
		小計 (5科目)				0	8	4単位以上	
	病態機能検査学	生体機能検査学特論	塩田敦子	1前		2	8単位以上	59	
		生体機能検査学演習	塩田敦子	2前		2		60	
		病態解析検査学特論	樋本尚志	1前		2		61	
		病態解析検査学演習	樋本尚志	2前		2		62	
		病理病態検査学特論	平川栄一郎	1前		2		63	
		病理病態検査学演習	平川栄一郎	2前		2		64	
		血液病態検査学特論	眞鍋紀子	1後		2		65	
		血液病態検査学演習	眞鍋紀子	2前		2		66	
		小計 (8科目)				0		16	
	病因解析検査学	病原因子検査学特論	奥田 潤	1後		2	8単位以上	67	
		病原因子検査学演習	奥田 潤	2前		2		68	
		生体防御検査学特論	行正信康	1後		2		69	
		生体防御検査学演習	行正信康	2前		2		70	
		生体化学検査学特論	多田達史	1後		2		71	
		生体化学検査学演習	多田達史	2前		2		72	
		遺伝子検査学特論	中村丈洋	1後		2		73	
		遺伝子検査学演習	中村丈洋	2前		2		74	
	小計 (8科目)				0	16			
	保健医療学特別研究		平木民子、國方弘子、高嶋伸子、吉本知恵、松村恵子、榮 玲子、舟越和代、塩田敦子、佐藤 功、内海知子、野口純子、片山陽子、合田加代子、松村千鶴、平川栄一郎、樋本尚志、眞鍋紀子、奥田 潤、中村丈洋、立石謹也、多田達史、行正信康、加太英明、古山達雄、ジャンゾエ ナヅマ、山主智子	2通		10	10単位	75 ～ 100	
	小計 (1科目)				10	0			
	合計 (59科目)					16	108	30単位以上	

授業科目表【看護学分野専門看護師コース】

科目区分		科目名	担当教員	配当年次	単位数		修了要件	ページ	
分野	領域				必修	選択			
専攻共通科目	専攻共通科目	健康増進科学論	樋本尚志	1 前		2	2単位以上	5	
		保健医療福祉論	佐藤 功、國方弘子、西谷清美	1 前		2		6	
		チーム医療特論	國方弘子、片山陽子、多田達史	1 後	2			7	
		疫学・統計学	辻よしみ、平尾智広	1 前		2		8	
		生命・医療倫理論	塩田敦子	1 後		2		9	
		英文献講読	ジャンジュア ナジマ、古山達雄、山主智子	1 前		2		10	
		小計（6科目）						2	10
看護学分野	専門共通科目	健康心理看護学特論	辻よしみ、片山陽子	1 後		2	10単位以上	11	
		健康生活支援方法論	榮 玲子、舟越和代、山主智子	1 前		2		12	
		家族発達支援方法論	松村恵子、野口純子、中村丈洋	1 後		2		13	
		看護理論	當目雅代	1 前	2			14	
		看護倫理	堀美紀子、國方弘子、土岐弘美、辻上佳輝	1 前	2			15	
		看護研究方法論	松村恵子、吉本知恵	1 前	2			16	
		看護教育学特論	平木民子	1 後	2			17	
		看護管理学特論	久保田聰美	1 後		2		18	
		看護コンサルテーション論	高嶋伸子、土岐弘美	1 後	2			19	
	小計（9科目）					10	8		
	看護学	基盤開発	看護人材育成学特論	平木民子	1 前		2		21
			看護人材育成学演習	平木民子	1 後		2		22
			看護技術学特論	松村千鶴	1 前		2		23
			看護技術学演習	松村千鶴	1 後		2		24
	小計（4科目）					0	8		
	健康生活支援看護学	健康生活支援看護学	地域精神看護学特論	國方弘子	1 前		2		25
			地域精神看護学演習	國方弘子	1 後		2		26
			公衆衛生看護学特論	高嶋伸子、合田加代子	1 前		2		27
			公衆衛生看護学演習	高嶋伸子、辻よしみ	1 後		2		28
療養支援看護学特論			内海知子	1 前		2	29		
療養支援看護学演習			内海知子	1 後		2	30		
老年看護学特論			吉本知恵	1 前		2	31		
老年看護学演習			吉本知恵	1 後		2	32		
在宅看護学特論			片山陽子	1 前		2	33		
在宅看護学演習			片山陽子	1 後		2	34		
小計（10科目）					0	20			
次世代育成看護学	次世代育成看護学	育成支援看護学特論	松村恵子	1 前		2		35	
		育成支援看護学演習	松村恵子	1 後		2		36	
		子ども発達支援看護学特論	舟越和代	1 前		2		37	
		子ども発達支援看護学演習	舟越和代	1 後		2		38	
		女性健康看護学特論	榮 玲子	1 前		2		39	
		女性健康看護学演習	榮 玲子	1 後		2		40	
		助産実践学特論	野口純子、竹内美由紀	1 前		2		41	
		助産実践学演習	野口純子、竹内美由紀	1 後		2		42	
小計（8科目）					0	16			

科目区分		科目名	担当教員	配当年次	単位数		修了要件	ページ
分野	領域				必修	選択		
看護学分野	専攻分野共通科目	精神保健医療福祉システム論	國方弘子、土岐弘美、井上典子、林京子、松下和子	1後	2		22単位以上	43
		精神看護アセスメント論Ⅰ	國方弘子、二宮昌樹、三谷理恵	1前	2			44
		精神看護アセスメント論Ⅱ	國方弘子、土岐弘美	1前	2			45
		精神看護セラピーⅠ	國方弘子、田中恒彦	1前	2			46
		精神看護セラピーⅡ	國方弘子、土岐弘美、竹森元彦、吉岡真砂子	1前	2			47
		レスポンス精神看護論	馬場華奈己、福田亜紀	1後	2			48
		精神看護援助論Ⅰ	國方弘子、土岐弘美	1後	2			49
		精神看護援助論Ⅱ	平木民子、竹内美由紀、土岐弘美、江波戸和子	1後	2			50
	実習	精神看護CNS役割実習	國方弘子、土岐弘美	1後	3			51
		精神看護直接ケア実習	國方弘子、土岐弘美	2通	3			52
		小計（10科目）			22	0		
臨床検査学分野	専門共通科目	検査総合管理学	中村丈洋、多田達史	1後		2	4単位	53
		医療情報管理学	立石謹也	1後		2		54
		環境衛生論	奥田 潤、眞鍋紀子、須那 滋	1前		2		55
		食理学	立石謹也、山主智子	1前		1		56
		検査研究方法論	加太英明、多田達史	1後		1		57
			小計（5科目）			0		8
		課題研究	國方弘子	1・2通	4			101
		小計（1科目）			4	0		
合計（48科目）					38	70	38単位以上	

專攻共通科目

健康増進科学論 (Health Promotion)									
必須・選択の区別	必修(研究コース・臨床検査学分野)、 選択(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	樋本 尚志 (Takashi Himoto)								
授 業 の 目 的	健康増進及び疾病の予防について、その基本的な考え方を修得する。栄養、食生活、運動、嗜好品などの生活習慣や環境の因子が健康に及ぼす影響について学習し、健康を維持するためにどのような策を講じる必要があるかを検討する。								
授 業 の 進 め 方	与えられたテーマについて各自で文献を検索してまとめる。まとめた結果を発表し、出席者全員で討論する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	健康増進科学論とは						
	2	運動	運動・身体活動と疾患						
	3	栄養、環境	食生活と疾患、環境と疾患						
	4	飲酒・喫煙	飲酒・喫煙と疾患						
	5	肥満	肥満と生活習慣病						
	6	ストレス	ストレスと疾患、ストレスの評価方法						
	7	生活習慣病(1)	メタボリックシンドロームの診断と問題点						
	8	生活習慣病(2)	肝疾患とメタボリックシンドローム						
	9	生活習慣病(3)	メタボリックシンドロームの治療						
	10	糖尿病(1)	糖尿病の診断、糖尿病の合併症、合併症の起こる機序						
	11	糖尿病(2)	糖尿病の治療、予防法						
	12	がん(1)	がんの危険因子						
	13	がん(2)	がん検診の現状						
	14	がん(3)	がんの予防法						
	15	総括	討論						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	国民衛生の動向(厚生統計協会、厚生指針臨時増刊) 健康増進科学論(ふくろう出版)								
成績評価の方法	レポート及び授業への貢献度で評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	討論の際には積極的な参加を期待する。								

保健医療福祉論 (Topics in Health and Welfare)									
必須・選択の区別	必修(研究コース・臨床検査学分野)、 選択(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	佐藤 功 (Katashi Satoh)、國方 弘子 (Hiroko Kunikata)、西谷 清美 (Kiyomi Nishitani)								
授 業 の 目 的	現代社会での保健医療・福祉との連携及び専門家の役割を学習する。								
授 業 の 進 め 方	(1)主に喫煙関連疾患に対し、住民が自ら自立、自覚して取組めるような指診、プログラム作成が可能となるべき能力を養う。特に青年期から成人期における喫煙行動に対する意識や喫煙行動の解析、禁煙を考える要因や背景の解析などを学習する。 (2)そのためには地域と施設の両面から保健医療・福祉サービスについて学習し、チーム医療としての連携のあり方および専門家としての役割を探求する。 (3)保健医療・福祉制度と政策及び、その基礎概念、プランニング、実践方法を学習する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	総論I	ガイダンス 学習の方法と講義予定						
	2	II	喫煙関連疾患の歴史的背景と概念						
	3	各論I	喫煙者の意識と行動及び生活習慣						
	4	II	能動喫煙と受動喫煙の健康への影響						
	5	III	喫煙者のストレスとヘルスプロモーション						
	6	IV	喫煙と「すこやか親子21」						
	7	V	喫煙とメタボリック症候群						
	8	VI	地域における保健医療						
	9	VII	地域における福祉サービス						
	10	VIII	施設における保健医療						
	11	IX	施設における福祉サービス						
	12	X	保健福祉の基礎概念						
	13	XI	保健医療とその政策						
	14	XII	福祉制度とその政策						
	15	XIII	プランニングと実践方法						
教 科 書	なし								
参考書・参考資料等	講義の中で適宜紹介します。								
成績評価の方法	授業への出席、貢献度とレポートで評価します。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	講義および課題についてプレゼンテーションを行い学生間の討議を行います。								

チーム医療特論 (Team Medicine and Practice)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、片山 陽子(Yoko Katayama)、多田 達史(Satoshi Tada)								
授 業 の 目 的	信念対立を解消し、より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作ることを目的に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学習する。さらに、職種を超えたメンバーでのディスカッションを通して、専門領域に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解し、それを理解した上で(関心相関的観点に立って)、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探求する。								
授 業 の 進 め 方	グループディスカッションと実践報告を中心に授業を進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	チーム医療と信念対立	1) 信念対立とは 2) チーム医療と信念対立						
	3～4	信念対立説明アプローチ	1) 信念対立説明アプローチの理論的基盤と技法論的基盤						
	5～8	グループディスカッション	1) チーム医療で体験した信念対立と対処法について 2) 上記で話し合った内容を構造図でまとめる						
	9～14	実践報告	1) 本授業で学んだことや気づいたことを視点として、各自が実践し、その結果として現場がどのように変わったか、どのような難しさがあったかについて実践報告をする。						
	15	まとめ							
教 科 書									
参考書・参考資料等	1 医療関係者のための信念対立説明アプローチ:コミュニケーション・スキル入門、京極真、(誠信書房)、2011. 2 構造構成主義とは何か、西條剛央、(北大路書房)、2005.								
成績評価の方法	討議への参加、プレゼンテーション及びレポートで評価する。								
オフィスアワー	適宜								
受講上の留意事項	1 集中講義とする。 2 前半を受講後に実践を行い、後半に実践報告をする。								

疫学・統計学 (Epidemiology, Statistics)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	辻 よしみ (Yoshimi Tsuji)、平尾 智広 (Tomohiro Hirao)								
授 業 の 目 的	保健医療サービスの質向上のためには適正に行われた測定・評価が不可欠である。本講ではこれらの手法を習得するために、事例を多用しながら疫学・統計学の理論と応用について学習する。								
授 業 の 進 め 方	健康と疾病の関係性、多要因による疾病の成立メカニズム、わが国の疾病構造の現状等を理解した後、疫学研究や統計解析の手法を習得する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	健康の概念	健康事象の成立、疾病の自然史、健康と予防医学、疾病対策と包括保健医療、健康管理対策						
	2	疾病成立過程の分析	疫学要因、疾病多要因原因説、必要条件と十分条件、因果のパイモデル						
	3	集団健康指標1	率と比、確率とオッズ、死亡率、罹患率、有病率、年齢調整、死因構造、生命表、生命関数、平均余命						
	4	集団健康指標2							
	5	疫学研究1	疫学研究と倫理、調査デザイン、サンプリング、						
	6	疫学研究2	フィールド調査、調査票、データ整理、データ入力						
	7	疫学研究3	スクリーニング、誤差、バイアス、交絡						
	8	疫学研究4	記述疫学と分析疫学、コホート研究、症例対照研究ほか						
	9	疫学研究5	薬剤疫学、RCT試験、二重盲検、クロスオーバー						
	10	統計学的推論1	確率分布、統計量、点推定と区間推定、率・比の信頼区間						
	11	統計学的推論2	比率の検定、独立性の検定						
	12	統計学的推論3	直接確率計算						
	13	統計学的推論4	平均値の検定、ノンパラメトリック検定						
	14	統計学的推論5	相関と回帰、多変量回帰分析						
	15	統計学的推論6	線形回帰、ロジスティック回帰						
15	統計学的推論7	ポアソン回帰、比例ハザード回帰							
教 科 書									
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。								
成績評価の方法	授業への積極性と課題レポートにより評価する。								
オフィスアワー	随時。メール可。E-mail:suna@chs.pref.kagawa.jp								
受講上の留意事項	授業の3回目以降では、エクセルやSPSSを用いた統計演算を行うので、可能な限り各自のノートパソコンを持参してもらいたい。								

生命・医療倫理論(Health Care and Bioethics)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	塩田 敦子(Atsuko Shiota)								
授 業 の 目 的	バイオサイエンスおよび医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的にあるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶとともに実例により理解を深める。								
授 業 の 進 め 方	主に講義形式で授業を行うが、グループワーク、事前学習、プレゼンテーション、討議などの方式を用いながら、自ら考えることを中心に生命・医療倫理を身近に感じてもらう。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	生命医療倫理	人間とその尊厳 生命倫理・医療倫理						
	2	インフォームドコンセント	患者の権利とインフォームドコンセント						
	3～4	生殖医療倫理	生殖補助医療と倫理 出生前診断・着床前診断、人工妊娠中絶						
	5	新生児医療と倫理	新生児医療と倫理						
	6	遺伝疾患と倫理	遺伝子・遺伝性疾患、遺伝カウンセリング						
	7～8	死と倫理	死と倫理(尊厳死、緩和ケア) 脳死と臓器移植						
	9	介護と倫理	介護(高齢者、障害者、難病)と倫理						
	10	再生医療と倫理	再生医療、エンハンスメント						
	11	倫理指針	ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針						
	12	倫理委員会	医学研究における倫理委員会の役割						
	13	無過失補償制度	無過失補償制度、薬害と医療倫理						
	14～15	グループ討議	実例に対する討議、レポート① 実例に対する討議、レポート②						
	教 科 書	厚生労働省・文部科学省の研究に関する指針							
	参考書・参考資料等	はじめて出会う生命倫理(有斐閣アルマ)							
成績評価の方法	出席の状況 10%、レポート、討議 90%								
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問・相談を受け付けます。								
受講上の留意事項	日頃から生命倫理、医療倫理に関わる情報に関心を持ち、答えをだすというより自分なりに考える習慣をつけてほしい。								

英文献講読 (Medical English for Research)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	ジャンジュア ナジマ (Najma Janjua)、古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)、山主 智子 (Tomoko T. Yamanushi)								
授 業 の 目 的	To develop students' ability to read and comprehend a typical English language research article in the field of medicine/health sciences with an emphasis on materials related to their respective fields of study as applicable.								
授 業 の 進 め 方	Prior to each class, students will be assigned as homework, reading of research articles and answering a set of comprehension questions based on the articles' content. In the classroom, students will discuss the read articles while the teacher will ascertain the accuracy of students' comprehension and guide them accordingly. The focus will be on developing students' ability to understand the logical sequence of and inter-relation between the various components of a typical medical research paper.								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1-5	Epilepsy genetics, other	Students will begin with reading of a typical research paper on biochemical and genetic aspects of epilepsy followed by reading of articles of their own selection. (Janjua)						
	6-10	Gerontology, other	Introduction to articles in the field of gerontology followed by reading of articles selected by students. (Furuyama)						
	11-15	Nutritional sciences, other	Introduction to research papers in nutritional sciences followed by reading of articles of students' choice. (Yamanushi)						
教 科 書	There is no specified textbook for this course. Teachers will provide the introductory materials for reading while students will make their own selections.								
参考書・参考資料等	Students are encouraged to use online resources such as the following to improve their reading/listening skills in the context of medical and health related issues: http://www.manythings.org/voa/medical/								
成績評価の方法	Evaluation will be based on class attendance and participation (50%) and home assignments (50%) and/or as judged appropriate by the teacher for a given class.								
オフィスアワー	By appointment								
受講上の留意事項	Motivation for English reading and a habit to use the dictionary will be great assets for successful completion of this course.								

看護学分野専門共通科目

健康心理看護学特論 (Health Psychology Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	辻 よしみ (Yoshimi Tsuji)、片山 陽子 (Yoko Katayama)								
授 業 の 目 的	健康心理看護学特論では、ライフサイクルにおける対象者の心理・社会的諸問題、危機的状況における対象者とその家族の実際について理解を深め、その支援について探究する。								
授 業 の 進 め 方	<p>1. 超高齢社会において、尊厳ある生を最期まで生きるための“最善の選択とは何か”の間は、人生の終焉を支える医療の課題である。終末期医療における特徴的諸問題(尊厳死や事前指示等)における意思決定や意思表示の課題と、その支援について探究する。学生主体で、プレゼンテーション・討議を行い、課題の分析と医療者の役割を理解する。</p> <p>2. 地域に住む対象者の健康に関する意識や行動を理解し、支援について考える。学生主体で、プレゼンテーション・討議を行い、課題の分析と支援者の役割を理解する。</p>								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	授業ガイダンス	学習の方法と講義予定 (片山・辻)						
	2~3	終末期の意思決定の社会的課題	終末期の諸問題(尊厳死・生命維持・事前指示等)における意思決定を考える—社会的課題— (片山)						
	4~5	意思決定・表明における心理的課題	意思決定と表明を必要とする患者と家族、医療者が抱える心理的課題 (片山)						
	6~7	医療者の役割	終末期の意思決定と表明を支援する医療者の役割 (片山)						
	8~9	健康行動理論の概念	健康行動理論の概念 (辻) エンパワメント、ヘルスピリーフモデル、変化のステージモデル、自己効力感						
	10~11	健康行動理論を活用した対象把握	健康行動理論を活用した対象把握 (辻)						
	12~15	健康行動理論を活用した支援方法	健康行動理論を活用した行動変容に向けての支援者の役割 (辻)						
教 科 書	特に指定しない								
参考書・参考資料等	授業時に必要に応じて紹介する。								
成績評価の方法	授業への参加態度及びプレゼンテーション・レポート等で総合的に評価する。								
オフィスアワー	研究室に連絡を下さい。その際、時間等を調整します。								
受講上の留意事項	課題テーマについて、プレゼンテーションと討議を学生主体で実施する。								

健康生活支援方法論(Methodology for Health Life Support)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	榮 玲子(Reiko Sakae)、舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)、山主 智子(Tomoko T. Yamanushi)								
授 業 の 目 的	あらゆるライフステージにある人々の生活や健康問題を把握するために必要な理論と知識を学習し、その人らしい自立した健康的な生活が営めるような支援方法やシステム構築を探究する。 1. 各ライフステージの対象者と家族を適切に把握するための理論を理解する。 2. 乳幼児期、思春期・青年期、成熟期、更年期、老年期の健康に影響する諸要因を理解し、生活の特徴や健康問題をアセスメントする知識を修得する。 3. 健康生活のための支援方法に関する研究の動向から支援方法やシステム構築について考察する。								
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてのプレゼンテーションと討議により進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	健康と病気	健康と病気の社会、心理、文化的背景 (榮)						
	3	生活と栄養	健康生活と栄養 (山主)						
	4～5	支援のための概念・理論	健康生活を支援するための有用な概念と理論 (榮) 健康のとらえ方 セルフケア理論の基本的な考え方 学習(行動変容)・エンパワーメント						
	6～7	制度と施策	生涯にわたる健康づくりのための保健医療福祉制度と施策 (榮)						
8～11	ライフステージ別に見た特徴と支援	各ライフステージの生活の特徴・健康問題と支援方法 ①乳幼児期・学童期の支援方法 (舟越) ②思春期・青年期の支援方法 (榮) ③成熟期の支援方法 (榮) ④更年期・老年期の支援方法 (榮)							
12～15	健康生活への支援方法の検討	健康生活の支援方法に関する研究成果や課題 (榮・舟越)							
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	宗像恒次、行動科学からみた健康と病気(メヂカルフレンド社) 藤原康晴、本間博文、生活健康研究(放送大学教育振興会) 山崎喜比古他編、生き方としての健康科学(有信堂高文社) 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所編著、ICF(国際生活機能分類)活用の試み-障害のある子どもの支援を中心に-(ジアース 教育新社) その他、適宜、文献等を提示・紹介する。								
成績評価の方法	授業への参加度(30%)、プレゼンテーション内容(30%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。								
オフィスアワー	特に設定はしないので、随時対応する。								
受講上の留意事項	知識や理論に基づいて考える力と主体的に学習する姿勢を培い、プレゼンテーションや意見交換を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待する。								

家族発達支援方法論 (Family Development Support Methodology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	松村 恵子 (Keiko Matsumura)、野口 純子 (Junko Noguchi)、中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)								
授 業 の 目 的	少子高齢社会における家族の理解に基づいた問題解決と課題達成の方法を実践的に探究する。特に、家族発達支援に必要な諸理論に基づいて、よりよい健康生活をめざした誕生から死にいたる家族構成員の生涯発達と、家族の発達段階に応じた健康教育・健康学習、そして家族の発達と自立を支援する方法について探究する。								
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材(パワーポイント、DVD、VTRなど)を用いる。 ・課題に関する自らの考えをまとめ報告し討議する。 								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	1.社会変動と家族発達	1 家族と社会						
	2	2.少子高齢社会における家族の特徴	2 現代における家族の特徴						
	3	3.家族の理解	3 家族発達理論						
	4	4.家族発達支援に必要な諸理論理解	4 遺伝様式						
	5	5.家族の健康と自立をめざした生活力	5 支援方法						
	6	6.家族発達支援に必要な諸理論	6 セルフケア理論						
	7	7.家族発達支援に必要な諸理論	7 家族ストレス対処理論						
	8	8.家族発達支援に必要な諸理論	8 家族システム理論						
	9	9.家族の危機	9 家族発達課題と家族の危機						
	10	10.家族関係のアセスメント	10 家族システム論に基づくアセスメント法						
	11	11.家族内コミュニケーションのあり方	11 危機を回避するコミュニケーション						
	12	12.家族内心理構造分析	12 次世代を生み育てる営みの形成						
	13	13 家族内心理構造分析	13 児童虐待						
	14	14.家族内心理構造分析	14 家庭内暴力						
	15	15.個人の発達と家族を取り巻くコミュニティや社会の発達	15 家族とコミュニティ						
教 科 書	なし								
参考書・参考資料等	1 前原武子編、松村恵子共著、発達支援のための生涯発達心理学、第6章 1.夫婦の関係 2.親役割、(ナカニシヤ出版)2008. 2 汐見稔幸著、親と子のゆっくりライフ、(金子書房)2009. 3 渡辺秀樹他編集、現代家族の構造と変容—全国家族調査(NFRJ98)による計量分析—、(東京大学出版会)2004. 4 平井晶子著、日本の家族とライフコース、(ミネルヴァ書房)2007. 5 竹田契一監修、発達支援をつなぐ地域の仕組み、(ミネルヴァ書房)2014. 6 長崎勤 他編、発達支援のユニバーサルデザイン、(金子書房)2013.								
成績評価の方法	授業に主体的に対峙する姿勢を重要視し、単元毎の課題報告の内容20%、討論の内容30%、学習課題の成果50%とする。								
オフィスアワー	・在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。								
受講上の留意事項	目的意識を持ち主体的に探究し、学問に対する充実感を高め、学識が深まることをめざしている。								

看護理論(Nursing Theory and Practice)									
必須・選択の区別	選択(研究コース・臨床検査学分野)、 必修(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	當日 雅代(Masayo Tome)								
授 業 の 目 的	<p>卓越した看護実践の基盤となる「看護の諸理論」を理解するための知識を得る。さらに、実践への適応とその限界を検討し、看護実践における理論の意義を探究する。</p> <p>1)看護実践・看護理論・看護研究に影響を及ぼしてきた思想や理論の変遷を理解する。 2)学んだ看護理論の知識を活用して、実践事例への適用を試み、分析的・批判的に検討する。 3)今日の臨床看護の実践、理論、研究を支える看護の理論的基盤の在り方について議論する。</p>								
授 業 の 進 め 方	課題について、プレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	看護理論に関する概念の理解と看護理論の分析	看護理論とは：看護理論の概念と重要性(理論と実践と研究の関係)						
	2		看護理論の歴史的発展過程						
	3		理論構築の方法①：(概念分析)						
	4		理論構築の方法②：(理論構築)						
	5		看護理論の分析の実際①：(大理論：自立—ニード論、相互作用理論)						
	6		看護理論の分析の実際②：(大理論：システム理論、ケアリング理論)						
	7		看護理論の分析の実際③：(中範囲理論：危機理論、ストレス・コーピング理論など)						
	8		看護理論の分析の実際④：(小理論：自己効力感、エンパワメントなど)						
	9	臨床事例への看護理論の適用(選択した理論のプレゼンテーションとディスカッション)	オレムのセルフケア理論を用いた事例分析						
	10		ロイの適応理論を用いた事例分析						
	11		ワトソンのヒューマンケアの理論を用いた事例分析						
	12		ストレス・コーピング理論を用いた事例分析						
	13		危機理論を用いた事例分析						
	14		病みの軌跡理論を用いた事例分析						
	15		不確かさの理論を用いた事例分析						
教 科 書									
参考書・参考資料等	<p>1.J.Fawcett.J(1993)/太田喜久子・筒井真優美監訳(2001). フォーセット、看護理論の分析と評価(廣川書店).</p> <p>2.Chinn,P.L.&Kramer,M.K.(1995)/白石聡(1997). 看護理論とは何か(医学書院).</p> <p>3.Chinn,P.L.&Kramer,M.K.(2004)/川原由佳里(2007). 看護学の総合的な知の構築に向けて。(エルゼビア・ジャパン).</p> <p>4.Tomey,A.M.&Alligood,M.R.(2002)/都留伸子監訳(2004). 看護理論家とその業績(第3版)、(医学書院).</p> <p>5.野上道子看護実践における中範囲理論(2010)、(メジカルフレンド社).</p> <p>6.筒井真優美編集(2009). 看護テキストNice、看護理論、看護理論の20の理解と実践への応用、(南江堂).</p> <p>その他、適宜、提示する。</p>								
成績評価の方法	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、レポートの成果を統合して評価する。								
オフィスアワー									
受講上の留意事項									

看護倫理(Nursing Ethics)									
必須・選択の区別	選択(研究コース・臨床検査学分野)、 必修(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	堀 美紀子(Mikiko Hori)、國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)、辻上 佳輝(Yoshiteru Tsujigami)								
授 業 の 目 的	看護実践の中で日常的に直面している倫理的な問題やジレンマ・葛藤場面における現象を深く洞察分析し、それらについて関係者間で倫理調整を行うために必要な基本的知識を習得する。								
授 業 の 進 め 方	<p>「講義を聴く」「人と意見交換する」「倫理的事例を分析し、討論する」「倫理問題を可視化する」これらの学習活動を通して、以下の目標が達成できるようにする。</p> <p>① 看護と倫理の関係性について理解する。 ② 看護倫理の基盤となる倫理原則や倫理的諸概念を理解する。 ③ 看護職が直面する倫理的問題の分析と問題解決のために必要な能力を養う。 ④ 関係者間で倫理調整を行う際の具体策を理解し、看護の役割について探求する。 ⑤ 看護のあらゆる場面において倫理的判断を行い、創造的な問題解決に向けた行動がとれる。</p>								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2～3 4 5 6 7～8 9～10 11～12 13～14 15	看護倫理とは 看護に必要な法的知識 倫理的判断の基準 看護実践上重要な倫理的諸概念 倫理的問題へのアプローチ 看護実践の中で生じる倫理的問題 精神看護領域における倫理的問題 倫理調整・倫理コンサルテーションの実際 まとめ	看護倫理とは、看護実践と倫理、看護倫理の変遷(堀) 医療事故と判例、看護師の医療行為、個人情報保護法、自己決定権と判例、精神看護領域の法的問題(辻上) 価値・権利の判断、医療者の義務と責任、倫理原則(堀) 自律、インフォームド・コンセント、アドボカシー、説明責任、ケアリングなど(堀) 倫理的問題の考え方、倫理的ジレンマ、看護で用いられる倫理アプローチ、倫理的意思決定のモデル(堀) 看護実践の場で生じる倫理的問題、対応方法と看護職の役割、実際に直面した事例分析、解決策(堀) 精神看護領域に特徴的な倫理的問題、対応方法と看護職の役割、実際に直面した事例分析、解決策(土岐・國方) 看護職が行う倫理調整の意義・役割、倫理コンサルテーションの考え方、アプローチ方法、評価方法、計画立案 看護専門職として問題解決への意思確認(堀)						
教 科 書	資料を配布する。								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	グループワークとディスカッションの内容及びプレゼンテーション、課題レポートにより総合評価する。								
オフィスアワー	質問や相談等がある場合は研究室に来てください。								
受講上の留意事項	第三者の立場ではなく、当事者の立場で感じ考えて議論していきましょう。								

看護研究方法論(Nursing Research)									
必須・選択の区別	選択(研究コース・臨床検査学分野)、 必修(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	松村 恵子(Keiko Matsumura)、吉本 知恵(Chie Yoshimoto)								
授 業 の 目 的	基本的な看護研究の方法と研究を進めていくプロセスを理解する。その知識を活用して、国内外の研究論文に対して、論旨の一貫性および研究方法の妥当性と信頼性の視点で評価する能力を修得する。研究者としての責任と倫理的配慮について理解する。これらの看護研究方法の概要を理解した後、量的研究方法と質的研究方法の特徴と研究の進め方を理解する。学習した看護研究方法の知識を活用して、文献収集と論文クリティーク演習を行い、健康と自立の支援をめざして看護学的知見を導く研究方法論について探究する。								
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材(パワーポイント、DVD、VTRなど)を用いる。 ・課題に関する自らの考えをまとめ報告し討議する。 								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	1. 看護研究の概観	1. 目的・意義、知識基盤、理論・法則、概念・モデル						
	2	2. 看護研究における倫理	2. 研究者としての倫理						
	3	3. 研究方法の種類と研究計画	3. 帰納的・演繹的研究、質的・量的研究						
	4	4. 量的研究方法	4. 研究デザイン、研究プロセス、論文クリティーク視点						
	5	5. 実験研究方法と実験プロセス	5. 論文クリティーク						
	6	6. 調査研究方法と調査プロセス	6. 論文クリティーク						
	7	7. 関連検証研究方法と検証プロセス	7. 論文クリティーク						
	8	8. 測定用具開発研究方法と開発プロセス	8. 論文クリティーク						
	9	9. Evidence- Based practice	9. EBPの意義、EBPプロセス、EBPの課題						
	10	10. 質的研究方法	10. 研究デザインと理論的背景、研究プロセス、質の確保、論文クリティーク視点						
	11	11. エスノグラフィー、民族看護学	11. 特徴、論文クリティーク						
	12	12. グランデッド・セオリー	12. 特徴、論文クリティーク						
	13	13. 現象学的アプローチ、解釈学的方法論	13. 特徴、論文クリティーク						
	14	14. アクションリサーチ	14. 特徴、論文クリティーク						
	15	15. 質的研究のデータ分析	15. 分析のプロセス、結果の解釈						
教 科 書	1 Nancy Burns/Suzan K Grove 著、黒田裕子/中木高夫他監訳、看護研究入門-実施・評価・活用-、(エルゼビア・ジャパン)2008.								
参考書・参考資料等	1 大木秀一著、看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん、(医歯薬出版)2013. 2 ジャニスM.モースペギー・アン・フィールド著、野地有子訳、モース&フィールドの看護研究、(日本看護協会出版会)2012. 3 竹内登美子監修、看護研究サクセスマニュアル、(インプレスコミュニケーションズ)2013. 4 南 裕子編、看護における研究、(日本看護協会出版会)2008. 5 キャロル・L・マクニー著、小山真理子監訳、実践に活かす看護研究、(中山書店)2008. 6 三瓶眞貴子、看護学の学的方法論に関する研究、(ブイツーソリューション)2007.								
成績評価の方法	授業に主体的に対峙する姿勢を重要視し、単元毎の課題報告の内容30%、討論の内容20%、授業終了後の学習課題の成果50%とする。								
オフィスアワー	・在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。								
受講上の留意事項	目的意識を持ち主体的に探究を続けることによって、看護研究に対する自らの学習成果を実感し、学識が深まることをめざしている。								

看護教育学特論(Nursing Education)									
必須・選択の区別	選択(研究コース・臨床検査学分野)、 必修(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	平木 民子(Tamiko Hiraki)								
授 業 の 目 的	看護専門職の継続教育およびキャリア開発に関する諸理論について理解を深め、CNS役割における「看護スタッフへの教育的関わり」および「教育環境づくり」に向けた支援方法について探究する。								
授 業 の 進 め 方	以下の目標を目指して行う。 1)看護専門職の生涯学習からみた継続教育の現状と課題について理解する。 2)CNSとして看護スタッフの実践評価ができるよう看護実践能力の構造と成長発達について理解する。 3)CNSとして看護スタッフに教育提供できるよう成人学習の原理に基づく教育計画の立案と評価の方法について理解する。 4)看護実践の学びの特徴と学びを促す環境に関する諸理論を理解し、CNSとして、看護を教える環境づくりへの支援について探求する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	看護専門職の継続教育とキャリア開発	生涯教育からみた看護継続教育の歴史的変遷と課題						
	2		日本と米国の継続教育の基準と評価						
	3		キャリア開発に概念、現任教育の現状と課題						
	4	看護実践能力の概念と発達の特徴	看護における専門職論、アイデンティティ						
	5		仕事世界における熟達化のメカニズム						
	6		批判的思考と省察的实践						
	7		看護実践能力の構造、看護の実践知、経験学習						
	8		ベナー理論						
	9		学習ニーズのアセスメント						
	10	実践能力の評価方法の開発	人材育成に関する評価の考え方						
	11		コンピテンシーの概念、導入と開発						
	12		クリニカルラダーの実態						
	13	臨床での指導方法	行動科学に基づく動機づけ						
	14		臨床コーチングの方法						
	15		学習する組織						
教 科 書	文献は適宜提示する。								
参考書・参考資料等	文献と資料は適宜提示する。								
成績評価の方法	出席状況、授業(ディスカッション)の参加度、プレゼンテーション内容、レポートを総合的に評価する。								
オフィスアワー									
受講上の留意事項									

看護管理学特論(Nursing Administration)									
必須・選択の区別	選択(研究コース・臨床検査学分野)、 必修(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	久保田 聡美(Satomi Kubota)								
授 業 の 目 的	<p>看護管理学の基本となる諸理論および看護管理過程について理解を深め、看護組織におけるCNSの役割および看護管理者との協働連携について探究する。</p> <p>1)看護管理者およびCNSがマネジメントを実践する上での根拠となる行動科学を理解する。</p> <p>2)看護組織の構造と看護管理過程を理解し、看護組織における看護管理者と看護スタッフおよびCNSの役割と仕事について理解する。</p> <p>3)看護の質を保証するしくみについて理解し、CNSとして看護ケアの変革を起こすための方法論について探究する。</p>								
授 業 の 進 め 方									
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	行動科学に基づくマネジメント 看護組織の構造と過程 看護の質保証と看護管理	マネジメントとリーダーシップ						
	2		リーダーシップに関する理論の変遷						
	3		行動科学に基づくモチベーション						
	4		集団行動の基礎とチームマネジメント						
	5		組織文化とダイナミクス						
	6		パワーと政治、コンフリクトと交渉						
	7		社会の変化と医療・看護の影響と看護管理						
	8		組織化と責任と権限						
	9		組織目標と人的資源の管理						
	10		看護管理者の役割と仕事						
	11		看護サービスの組織化と他職種との連携協働						
	12		看護ケアの変革						
	13		看護サービスの質保証の管理方法						
	14		看護の質を評価するための指標の開発						
	15		研究活動と看護管理						
教 科 書									
参考書・参考資料等	<p>1)看護管理学習テキスト<1巻:看護管理概説、2巻:看護組織論、3巻:看護マネジメント論、4巻:看護における人的資源活用論>、(日本看護協会出版会)。</p> <p>2)中西睦子(2007)看護管理サービス管理、(医学書院)。</p> <p>3)S.P・ロビンス/高木春夫訳(2009)組織行動のマネジメント、(ダイヤモンド社)。</p> <p>4)A.W.ワジナー、井部俊子訳(2003)アウトカム・マネジメント、(日本看護協会出版会)。</p>								
成績評価の方法	出席状況、授業(ディスカッション)の参加度、プレゼンテーション内容、レポートを総合的に評価する。								
オフィスアワー									
受講上の留意事項									

看護コンサルテーション論(Nursing Consultation)									
必須・選択の区別	選択(研究コース・臨床検査学分野)、 必修(専門看護師コース)	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)、土岐 弘美(Hiromi Toki)								
授 業 の 目 的	コンサルテーションの基本的概念を理解し、実際の看護活動を効果的にするために、関係者の主体性を尊重し看護職の専門性を活用しつつ、相談者に適切な援助ができる CNSとしての能力の育成を目指す。 また、保健医療福祉など、ケアを提供する看護職及び関係者が職務を遂行する過程で直面する問題や課題を解決するためのコンサルテーションの具体的援助方法について事例を通して学ぶ。								
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてプレゼンテーションを行い学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	定義と理論	1. コンサルテーションの定義と種類 (高嶋) 2. コンサルテーションで用いる理論						
	3～4	他概念との検討	3. 関連する他概念の理解 (土岐) パートナーシップ、コラボレーション、スーパービジョン、カウンセリング、co-management、referral等との比較 視点:目的・役割・関わりの頻度や関係性、対象者、責任所在、活用の短所などを整理し、プレゼンを行う(最低3概念選択)						
	5～7	組織を対象としたコンサルテーションと実際	4. 組織におけるコンサルテーション、組織開発 (高嶋・土岐) 専門看護師の活動の実際						
	8～11	コンサルテーションのモデルとプロセス	5. コンサルテーションモデルのモデルとプロセス (土岐) 1)コンサルテーションモデルの理解 2)プロセスの理解 3)促進要因について検討 4)高度看護実践におけるコンサルテーション能力の育成課題について検討 5)必要な技術の検討 6)評価方法の検討 7)変革するためのコンサルテーションの検討						
	12～15	コンサルテーションの実際:事例発表	6. 事例を用いたコンサルテーションの評価 (高嶋・土岐)						
教 科 書	山本和郎:コミュニティ心理学 地域臨床の理論と実践、(東京大学出版会)、1995.								
参考書・参考資料等	1 野末聖香他:リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために-,(医歯薬出版)、2004. 2 パトリシア・R・アンダーウッド:パトリシア・R・アンダーウッド論文集 看護理論の臨床活用[南裕子 監修]、(日本看護協会出版会)、2003. 3 日本精神科看護技術協会:実践精神科看護テキスト(基礎・専門基礎編)改訂版コンサルテーション/リーダーシップ、(精神看護出版)、2011. 4 Susan L.Norwood.Nursing Consultation:A Framework for Working with Communities.Prentice Hall,2003.								
成績評価の方法	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、レポートの成果を統合して評価する。								
オフィスアワー	適宜、対応します。								
受講上の留意事項	教科書購入の上、初回授業に臨んでください。								

基盤開発看護学
領域科目

看護人材育成学特論 (Topics In Nursing Professional Development)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	平木 民子 (Tamiko Hiraki)								
授 業 の 目 的	看護人材育成に関する主要テーマから探求課題を設定し、個人の経験の振り返り、政策トピックスにみる今日の動向の分析、文献レビュー、これらの分析作業を通して、主要テーマに関わる内容の理解を深めると同時に、今後必要とされる研究課題について考察する。このプロセスの中で、課題を設定し、系統的に調べて検討し、効果的な発表とディスカッションができる能力を高める。								
授 業 の 進 め 方	プレゼンテーションとディスカッションを進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～5	看護教育制度に関する課題	基礎教育と継続教育に関する以下のテーマから探求課題を設定する。 ・看護基礎教育の教育制度、看護教員の資質向上 ・新人看護職員臨床研修制度の推進 ・スペシャリスト教育 (CNS、認定看護師など)						
	6～10	能力開発および教育のしくみづくり	「プログラム開発、カリキュラム構築、システム構築」に関する以下のテーマから探求課題を設定する。 ・基礎教育における看護実践能力育成のコアカリキュラム ・看護職キャリア開発プログラム (ラダーシステムの構築・導入・活用・評価) ・看護管理者、教育担当者など特定人材層の能力開発						
	11～15	看護実践能力の開発方法と評価方法	以下のテーマから探求課題を設定する。 ・学生の看護学実習における指導と指導者 ・ジェネラリストナースの看護実践能力の評価方法の開発 ・ベテランナースの実践知の解明 ・看護実践におけるリフレクションと協働学習						
教 科 書	文献は随時提示する。								
参考書・参考資料等	文献資料は適宜、配布する。								
成績評価の方法	1. プレゼンテーションの内容と質: 作成資料のわかりやすさ、論点の明快さ、文献の読解力、分析考察の適切性と深さ (50%) 2. 授業参加度: 出席とディスカッションへの貢献度 (50%)								
オフィスアワー									
受講上の留意事項									

看護人材育成学演習 (Seminar In Nursing Professional Development)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	平木 民子 (Tamiko Hiraki)								
授 業 の 目 的	看護に対する社会的ニーズの変化を見極め、経験的な視点と理論的な視点を統合しながら、看護人材育成に関する現象を洞察し、問題や課題を分析する。その問題の解明に向けて、自己の研究課題を明確化しながら研究方法を追究し、研究計画を作成する。このプロセスの中で、看護人材育成に関する理論と実践をつなぐ概念化能力や批判的思考力や創造力を高め、研究を展開する能力の基盤とする。								
授 業 の 進 め 方	プレゼンテーションとディスカッションで進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～5	問題意識の明確化と研究テーマの絞り込み	① 自己の経験を想起し問題意識を喚起する。 ② 問題を喚起できない場合は、看護人材育成に関する実践現場に出て、現象を参加観察し、また関係者の意識を面談によって把握する。 ③ 多角的な方法で得た情報を分析解釈し、関連する政策やトピックスと併せて問題の所在を明確化する。						
	6～10	文献検討	④ 研究テーマを解き明かすために有用な理論(成人教育論、生涯学習論、キャリア開発論、経営管理論、人材開発論など)を探索し検討する。 ⑤ 研究テーマに関連する先行研究を系統的に探索し検討する。						
	11～15	研究課題の設定と研究方法の検討	⑥ 研究テーマに関する研究的疑問(仮説)を抽出し、研究課題として設定し、さらに研究の前提とする概念や概念枠組みを検討し設定する。 ⑦ 研究課題に適した研究方法を検討する。 ⑧ 研究計画書を作成する						
教 科 書	文献は随時提示する								
参考書・参考資料等	文献資料は適宜紹介する。								
成績評価の方法	1. プレゼンテーション内容: 作成資料のわかりやすさ、論点の明快さ、文献の読解力、分析考察の適切性と深さ(70%) 2. 授業参加度: 出席とディスカッション(30%)								
オフィスアワー									
受講上の留意事項	良い研究は、現象への深い洞察と理論的考察をとおして“良質な研究の問い”(リサーチ・クエスチョン)を立てることに始まります。知的好奇心を喚起して取り組みましょう。								

看護技術学特論 (Topics in Nursing care and skill)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	松村 千鶴 (Chizuru Matsumura)								
授 業 の 目 的	疾病や障害が引き起こす生活機能の低下についてアセスメントし、対象者に安全で安楽なケア技術を行うために、看護生理学的な視点で科学的根拠を系統的に追求する能力を高める。								
授 業 の 進 め 方	健康障害のある対象者の日常生活行動についてアセスメントし、安全で安楽な生活が送れるためのフィジカルイグザミネーションの方法を学部の講義と演習を通して進める(利用する学部科目は看護学方法論Ⅳ)。この教育体験をもとに、看護実践の場における疑問や改善点を研究的視点で抽出する。この疑問点や改善点について、文献検討したものをプレゼンテーションとディスカッションで進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	ケア技術におけるエビデンス探究の必要性	1) Evidence-Based Nursing (EBN) の理念と必要性を把握する。 2) 対象者の日常生活行動をアセスメントし、疾病による生活機能レベルに応じた援助を検討する。						
	3～8	学部授業教育研修	3) ケア技術のエビデンスに関する課題を明確化する。						
	9～15	文献検討	4) ケアの安全と安楽には研究的志向が必要であることを追究する。						
教 科 書	文献は随時、提示する。								
参考書・参考資料等	資料は適宜、提示する。								
成績評価の方法	プレゼンテーション(70%)、出席、討議への参加状況(30%)								
オフィスアワー	日時を調整し、随時対応する。								
受講上の留意事項	看護実践の場で行われているケア技術は、経験的な技に頼っている現状があります。今後、これまで以上に、このケア技術を確立・進化させる新たなエビデンスが求められています。ともに新たな知見を発見してみましょう。								

看護技術学演習 (Seminar in Nursing care and skill)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	松村 千鶴 (Chizuru Matsumura)								
授 業 の 目 的	学生の研究課題に関連した科学理論について知識を深め、看護の対象の疾病や障害が引き起こす生活機能低下の体験や症状、ケアに関する看護生理学的な論文を徹底的に検討する能力を高める。								
授 業 の 進 め 方	ゼミナール形式で進める。自身の研究課題に関連した国内外の文献をもとに、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。研究課題で明らかにしたい現象の測定・評価、分析方法を決める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	導入	1) 原著の読み方、ブラウジングの方法						
	2～13	研究課題の絞り込みと 文献検討 研究方法の設定	2) 研究課題に関連した国内外の論文購読 ・研究課題の明確化 ・文献のクリティーク ・研究課題の背景 ・研究目的の設定 ・研究方法の設定 ・測定用具で測定する方法の習得						
	14～15	まとめ	3) 研究計画書の作成						
教 科 書	文献は随時、提示する。								
参考書・参考資料等	資料は適宜、提示する。								
成績評価の方法	プレゼンテーション(70%)、出席、討議への参加状況(30%)								
オフィスアワー	日時を調整し、随時対応する。								
受講上の留意事項	スケジュールは学生の状況により調整します。								

健康生活支援看護学 領域科目

地域精神看護学特論 (Topics in Psychiatric and Mental Health)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子 (Hiroko Kunikata)								
授 業 の 目 的	メンタルヘルスに健康問題をもつ人とその家族ならびに彼らを取り巻く人々が、その人の望む生活をその人らしく生き生きと送れる、すなわち生活の質の向上の支援を中心とした看護を実践するための理論的基盤を学び、対象の健康と自立の支援について深く探求する。具体的には、問題に焦点を当てるにとどまらず、個人と社会に内在する能力・自信・願望・資源などのストレンクスに着目することで、対象の健康と自立を支援する方法を学ぶ。また、認知行動理論の学習と演習により、対象が自分自身で自らを助ける(自助)ための援助方法を学ぶ。								
授 業 の 進 め 方	講義と演習で進める。 院生によるプレゼンテーションを中心に進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス							
	2～8	Strengths modelからの理解と支援	1)リカバリーとは 2)Strengths modelについて 3)ストレンクス・アセスメント						
	9～13	認知行動理論からの理解と支援	1)認知行動モデルの理解と技法 2)自尊心回復グループ認知行動看護療法						
	14～15	演習	1)認知行動看護介入の演習						
教 科 書	ストレンクスモデル(金剛出版)、自分を好きになるためのワークブックシートを使って進める自尊心回復グループ行動看護療法-(ふくろう出版)								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	討議への参加、プレゼンテーション及びレポートで評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項	講義及び課題についてプレゼンテーションを実施し、学生間の討議を行う。								

地域精神看護学演習 (Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子 (Hiroko Kunikata)								
授 業 の 目 的	メンタルヘルスの健康問題に関する看護支援方法の開発をねらいとし、学生の関心領域の文献検討を丁寧に行いながら、問題の明確化と研究課題の絞り込み、研究課題の意義と背景、概念枠組みの設定(量的研究の場合)、研究目的の設定、研究方法の設定を経て、プレゼンテーションと討議をする中で研究計画書を練り上げる。また、学生が用いる研究方法の習得を目指す。								
授 業 の 進 め 方	講義と演習で進める。 院生によるプレゼンテーションを中心に進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス							
	2～10	文献調査	1) 研究の構想と問題の明確化 2) 文献のクリティークと要約 3) 研究課題の絞り込み 4) 研究課題の背景と意義 5) 概念枠組みの設定(量的研究の場合) 6) 研究目的の設定、変数と仮説の設定						
	11～15	研究方法	7) 研究における倫理 8) 研究方法の設定 9) 用いる研究方法の習得						
教 科 書	看護研究 原理と方法(医学書院)								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	討議と演習への参加、プレゼンテーション及びレポートで評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項	1 講義及び課題についてプレゼンテーションを実施し、学生間の討議を行う。 2 演習に関しても、学生間の討議を行う。 3 柔軟な発想で、何よりも研究を楽しむことを期待します。								

公衆衛生看護学特論 (Advanced of Public Health Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)、合田 加代子(Kayoko Gouda)								
授 業 の 目 的	公衆衛生看護の理念と活動を理解し、地域診断に関連するモデルや地域で生活する人々に対する科学的根拠に基づく多様な看護実践の方法論を学び、個人・家族・集団・地域の健康と自立を目指す専門的実践のあり方を追求する。また保健師の専門性を修得できる保健師教育の方法方向性について探求する。								
授 業 の 進 め 方	教員から出された課題についてプレゼンテーションを行い学生間の討議する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	公衆衛生看護の概要	公衆衛生看護の理念と活動分野・動向 公衆衛生看護の歴史と公衆衛生看護の課題						
	3～4	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションの歴史的・哲学的・理論的観点 ヘルスプロモーションを実現するための概念						
	5～6	地域診断モデル	地域看護実践の基盤とする地域診断モデルと関連モデル コミュニティ・アズ・パートナーモデル						
	7～8	保健師の専門能力	保健師のコンピテンシー、保健師の活動指針 保健師の機能と役割						
	9～10	保健師の基礎教育の概要	保健師教育における技術項目と到達目標、保健師現任教育						
	11～12	保健師の活動展開の特徴	個人・家族への専門的実践の探究と開発						
	13～14		集団支援、地域ケアシステム構築への専門的実践の探究						
		15	まとめ	保健師活動の課題と展望					
教 科 書	1 金川克子・早川和生監訳:コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際。(医学書院) 2 神馬征峰訳:実践ヘルスプロモーションPRECED-PROCEDEモデルによる企画と評価。(医学書院) 3 宮本ふみ:無名の語り。(医学書院) 4 家庭生活力量モデル アセスメントスケールの活用法。(医学書院)								
参考書・参考資料等	高野順子訳:ヘルスプロモーション実践の変革 新たな看護実践に挑む.日本看護協会出版会								
成績評価の方法	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、レポートの成果を統合して評価する。								
オフィスアワー	日時を調整したうえ随時対応								
受講上の留意事項	研究課題については担当教員の指導を受ける。								

公衆衛生看護学演習 (Seminer in Public health Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)、辻 よしみ(Yoshimi Tsuji)								
授 業 の 目 的	地域診断や個別事例のアセスメントを踏まえ、地域住民の健康と自立を目指すための保健計画の立案など地域における看護実践能力や方策について探求するとともに、演習を通して研究課題を見出し、研究計画書を作成する。								
授 業 の 進 め 方	公衆衛生看護の基本的な方法論を活用して、対象地域のアセスメントを行い講義及び課題についてプレゼンテーションを行い学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	地域のアセスメント	地域のコミュニティアセスメント(各学生のフィールド) (高嶋・辻)						
	3～4	〃	コミュニティアセスメントによる健康課題の発表と討議 (辻)						
	5～6	個別事例からの展開	個別事例からみた地域の健康課題の発表と討議 (辻)						
	7～8	文献レビュー	地域看護研究:地域・在宅看護関連文献レビューと討議 (辻)						
	9～10	健康課題と保健計画	コミュニティや個別事例の健康課題から立案した保健計画や地域看護実践について討議 (辻)						
	11～12	研究計画書の検討	地域看護研究:研究計画書の立案検討 (辻)						
	13～14	〃	地域看護研究:研究計画書の討議 (高嶋・辻)						
	15	研究計画書の発表	地域看護研究:研究計画書の発表 (高嶋・辻)						
教 科 書	【必携(参考)図書及び文献】 1 金川克子・早川和生監訳:コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際。(医学書院) 2 神馬征峰訳:実践 ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価(医学書院)								
参考書・参考資料等	適宜、参考図書・文献を提示する。								
成績評価の方法	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、各自の課題達成状況、レポートの成果を統合して評価する。								
オフィスアワー	日時調整のうえ随時対応する。								
受講上の留意事項	研究課題については担当教員の指導を受ける。								

療養支援看護学特論 (clinical health nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	内海 知子 (Tomoko Utsumi)								
授 業 の 目 的	療養上の看護支援を必要とする健康上の問題を持つ人々のQOLを高めることを志向した健康回復、健康維持への援助について、今後取り組む必要のある研究テーマを探究する。そのために、看護実践を支持する理論的基盤、概念などについて学びながら、文献検討や保健医療福祉政策などの社会動向の分析を通して、療養支援における今日的課題を考察する。特に、がん療養支援では、がん患者と家族の持つ全人的苦痛、倫理的課題を多角的に考察し、がんサバイバーシップの考え方をもとに、QOLの向上につながる実現可能な支援方法を探究する。								
授 業 の 進 め 方	各回の講義をもとに、その内容に沿った文献を検討し課題レポートを作成する。クラスでプレゼンテーションとディスカッションを行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	ガイダンス						
	2	がん看護の動向と課題	がんの統計、がん政策から見たがん看護の動向と課題						
	3～6	〃	がんの治療・療養過程に焦点を当てた看護実践:文献クリティーク						
	7～8	〃	がん患者と家族の理解:文献クリティーク						
	9～10	がん看護における主要な	がんサバイバーシップ						
	11～12	概念と理論	ストレス・コーピング、喪失と危機、意思決定と倫理的課題						
	13～14	療養支援看護	病院における看護の課題:地域包括ケア、地域連携など						
	15	まとめ	探究課題の明確化						
教 科 書	講義の中で、適宜紹介する。								
参考書・参考資料等	講義の中で、適宜紹介する。								
成績評価の方法	プレゼンテーション(20%)、討議への参加(20%)および課題レポート(60%)により評価する。								
オフィスアワー	研究室に連絡してください。その際、時間調整します。								
受講上の留意事項	スケジュールは、学生の状況により調整します。								

療養支援看護学演習 (Seminar in Clinical Health Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	内海 知子 (Tomoko Utsumi)								
授 業 の 目 的	療養支援看護学特論での学びをもとに、学生の関心領域を中心に文献レビューを行い、プレゼンテーションおよびディスカッションにより研究課題と研究意義を明確にする。また、フィールド演習を行いながら、研究方法論の学習と習得、研究における倫理的課題について学ぶ。これらの過程を通して、研究計画書を作成し、学生によるピアレビューを行いつつ洗練させる。								
授 業 の 進 め 方	書籍により質的研究の方法論を学びながら、学生個々の関心に沿ってプレゼンテーションとディスカッションを進める。								
	回	項 目	内 容						
授 業 スケジュール	1～5	研究課題の明確化	関心領域に沿った系統的文献検索、文献のクリティーク、研究課題の明確化						
	6～9	看護理論開発のための研究方法: 質的研究	質的研究の基盤と具体的方法						
	10～15	研究計画書の作成	研究計画書の作成						
教 科 書	講義の中で、適宜紹介する。								
参考書・参考資料等	大木秀一: 文献レビューのきほん (医歯薬出版) 谷津裕子、江藤裕之: 質的研究をめぐる10のキークエスチョン (医学書院) 木下康仁: グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生 (弘文堂)								
成績評価の方法	プレゼンテーション(20%)、討議への参加(20%)および課題レポート(60%)で評価する。								
オフィスアワー	研究室に連絡してください、その際、時間調整します。								
受講上の留意事項	スケジュールは、学生の状況により調整します。								

老年看護学特論 (Gerontological Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	吉本 知恵 (Chie Yoshimoto)								
授 業 の 目 的	高齢者とその家族を全人的に理解し、Quality of lifeを高める看護実践を支持する理論的基盤について探求する。さらに、老年看護学の動向や今日的課題を分析・考察し、対象者とその家族のQuality of lifeを高める看護について探求する。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてのプレゼンテーションとディスカッションを行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2～7	ガイダンス 主要な概念・理論①	ガイダンス Aging 心理・社会的発達理論 高齢者のQuality of life、生きがい エンパワーメントモデル、ストレングスモデル ICF生活機能モデル 高齢者総合機能評価						
	8 9～10	認知症高齢者と看護 主要な概念・理論②	認知症高齢者の医療・看護の動向 認知症高齢者ケアモデル アクティビティケア						
	11～12	倫理的課題と看護	老年看護における倫理的課題・意思決定支援 エンドオブライフケア						
	13 14～15	動向と課題 老年看護の役割	老年看護学教育・研究・実践の動向と今日的課題 老年看護の役割						
	教 科 書	講義の中で、適宜紹介する。							
参考書・参考資料等	講義の中で、適宜紹介する。								
成績評価の方法	プレゼンテーションの内容(30%)、ディスカッションへの参加(30%)および課題レポート(40%)により評価する。								
オフィスアワー	研究室に連絡してください。その際、時間調整します。								
受講上の留意事項	授業内容およびスケジュールは、学生の状況により調整します。								

老年看護学演習 (Seminar in Gerontological Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	吉本 知恵 (Chie Yoshimoto)								
授 業 の 目 的	学生の関心領域に関する文献検討を行い研究の動向を把握すると共に、プレゼンテーション及びディスカッションを行い研究課題と研究の意義を明確化する。また、研究課題に適した研究方法や倫理的配慮について検討し、研究計画書を作成する。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてのプレゼンテーションとディスカッションを行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2~4 5~7 8~11 12~15	ガイダンス 文献検討 研究課題の明確化 研究方法の検討 研究計画書の作成	ガイダンス 関心領域の文献検討 研究課題の検討 研究課題に適した研究方法の検討 研究計画書の作成						
教 科 書	講義の中で、適宜紹介する。								
参考書・参考資料等	講義の中で、適宜紹介する。								
成績評価の方法	プレゼンテーションの内容(30%)、ディスカッションへの参加(30%)および課題レポート(40%)により評価する。								
オフィスアワー	研究室に連絡してください。その際、時間調整します。								
受講上の留意事項	授業内容およびスケジュールは、学生の状況により調整します。								

在宅看護学特論(Home Care Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	片山 陽子(Yoko Katayama)								
授 業 の 目 的	在宅療養者と家族が望む生活と生き方を支援するために必要な在宅看護実践の理論やモデルについて学び、対象の自立と自律に貢献するための方略を探究する。また、在宅看護に関連する今日的課題、社会状況に関してもクリティカルな思考をもちディスカッションする中で、当該分野において探究すべき課題を明確化し系統的に情報収集・分析し表現する能力を高める。								
授 業 の 進 め 方	講義、課題に関してプレゼンテーション及び討議を行う								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～5	在宅看護分野の課題	地域包括ケアシステムの構築 在宅療養者と家族の意思決定 在宅看護実践の倫理的課題 我が国の在宅ケアの政策動向						
	6～10	在宅看護に関する理論・モデル	療養者と家族のアセスメントモデル Omahaシステム Shared Decision Making						
	11～15	在宅看護実践モデル	在宅看護実践から課題を設定 設定に関するプレゼンテーションの実施 リフレクション・討議						
教 科 書	適宜紹介する								
参考書・参考資料等	文献・資料は適宜紹介する								
成績評価の方法	プレゼンテーションの成果(50%)、討議の参加・貢献度と内容(50%)								
オフィスアワー	随時に対応しますが、事前に連絡いただければ時間確保しやすい								
受講上の留意事項									

在宅看護学演習 (Seminar in Home Care Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	片山 陽子 (Yoko Katayama)								
授 業 の 目 的	在宅療養者と家族を支援するための在宅看護実践能力を高めるため、系統的アセスメントや臨床判断能力の向上をめざす。また、チームアプローチと合意形成能力を高め、療養者と家族、とりまく集団やコミュニティへのアプローチの方略を見出し看護マネジメントの実践力を身につける								
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の展開とシミュレーターを用いた実践演習を実施する ・訪問診療や看護、チーム会議への同行訪問も実施しディスカッションする ・系統的分析を行いプレゼンテーション・討議を実施する 								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～5	支援の有効性と妥当性の検証 課題事例の分析方法 演習計画の設定と調整 合意形成とファシリテート	在宅療養者と家族への支援方法を検証の実施方法 事例の系統的アセスメントと医学的判断 医療と生活の統合方法 実践事例・状況への介入方法の検討と設計 チームビルディングと合意形成モデル フィールドワークの調整と介入計画立案						
	6～10	実践事例や活動の実施 フィールドワーク 分析・評価	実践・介入の実施 関連文献のクリティークと探究課題の焦点化 分析と評価						
	11～15	プレゼンテーションと討議 臨床疑問から研究疑問への転換 研究課題の明確化	実践・介入の分析とリフレクション プレゼンテーションと討議の実施 臨床疑問から研究疑問に転換する方法 研究疑問から研究課題への明確化						
教 科 書	適宜紹介する								
参考書・参考資料等	文献資料等適宜紹介する								
成績評価の方法	参加度、演習内容とプレゼンテーション、課題レポート等を総合的に評価する								
オフィスアワー	希望にて適宜調整する								
受講上の留意事項									

次世代育成看護学
領 域 科 目

育成支援看護学特論(Training Support Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	松村 恵子(Keiko Matsumura)								
授 業 の 目 的	子どもを産み育てる発達段階における健康の意義と課題、健康増進の観点から性と生殖に関する学識を深め、母性・父性や育児性などの主要概念について吟味・検討のうえ、健康と自立をめざし有機的に展開できる育成支援の看護実践方法を探究する。								
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材(パワーポイント、DVD、VTRなど)を用いる。 ・課題に関する自らの考えをまとめ報告し討議する。 								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	1.社会における性と生殖について概観	1. 今日的課題と今後の課題						
	2	育成支援の看護実践に関連する主要概念①	2. Reproductive・Health/rights						
	3	主要概念②	3. 母性、父性、子育ての社会通念とイデオロギー並びに概念の変遷						
	4	主要概念③	4. 育児性、養護性、受容性、規範性の社会的背景						
	5	2.性の発達と健康ならびに生殖技術～その1	5. 生命倫理と公論の哲学						
	6	～その2	6. 発達理論からの考察						
	7	～その3	7. Human sexuality、Sex roles・Gender roles、Gender Identity						
	8	3.次世代育成と支援方法	8. 生命、生殖技術、自己決定権						
	9	4.次世代育成支援に関連する諸理論	9. 日本と諸外国の施策の動向						
	10	5.子育てにおける基本的問題と相互浸透行為	10. 親と子の発達段階と課題						
	11		11. 乳幼児虐待など子育て病理の背景						
	12		12. 親と子の健康と自立の支援						
	13	6.学童期と思春期の健康問題の在所と	13. 発達段階における特徴と健康支援						
	14	支援① 支援②	14. 家庭、学校、地域における場と人の有機的関連						
	15	7.次世代育成支援における今後の課題	15. 次世代育成支援						
教 科 書	なし								
参考書・参考資料等	1 松村恵子著、母性意識の構造と発達、(真興交易医書出版部)2000. 2 松村恵子著、母性意識を考える、(文芸社)2005. 3 岡本裕子編、エピソードでつかむ生涯発達心理学、(ミネルヴァ書房)2013. 4 渡邊賢二著、思春期の母親の養育態度と子育て支援、(ナカニシヤ出版)2013. 5 深谷昌志編、育児不安の国際比較、(学文)2008. 6 山岡テイ著、地域コミュニティと育児支援のあり方、(ミネルヴァ書房)2007.								
成績評価の方法	授業に主体的に対峙する姿勢を重要視し、単元毎の課題報告の内容30%、討論の内容20%、学習課題の成果50%とする。								
オフィスアワー	・在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。								
受講上の留意事項	目的意識を持ち主体的に探究し、学問に対する充実感を高め、学識が深まることをめざしている。								

育成支援看護学演習 (Seminar in Support Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	松村 恵子 (Keiko Matsumura)								
授 業 の 目 的	<p>少子社会の次世代育成支援について、学際的に看護実践方法や、支援システムの構築に取り組む力を培うことをめざした文献クリティークと事例検討を行い、修士論文作成に反映する。特に、子どもと親、家族が生涯を通して健康と自立の生活を営むことができるように、支援する方法について探究する。</p>								
授 業 の 進 め 方	<p>・視聴覚教材(パワーポイント、DVD、VTRなど)を用いる。 ・課題に関する自らの考えをまとめ報告し討議する。</p>								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	1.研究の構想	1・自らの研究に対する理解						
	2	2.育成支援看護学領域における研究の動向・課題	2・関連領域における研究の理解						
	3	3.次世代育成看護学領域に関する文献等の精選	3・文献収集と整理の方法						
	4	4.精選した文献・研究論文のクリティーク	4・論文クリティーク						
	5	~①	5・論文クリティーク						
	6	~②	6・論文クリティーク						
	7	~③	7・論文クリティーク						
	8	~④	8・論文クリティーク						
	9	~⑤	9・研究計画書の作成						
	10	5.研究課題の焦点化に向けての検討	10・研究に関する理論体系の理解						
	11	6.理論体系からみた研究課題と研究方法の検討	11・研究と倫理						
	12	7.研究課題に関する倫理的問題の明確化	12・研究課題に関する分析						
	13	8.研究課題に関する理論的枠組みの明確化	13・研究デザインと研究枠組み						
	14	9.研究デザインと概念等の研究枠組みの関係	14・研究計画書の吟味						
	15	10.研究計画書の構成要素についての解釈	15・研究計画書の完成						
15	11.研究計画書の作成								
教 科 書	なし								
参考書・参考資料等	<p>1 John W. Creswell/著、操華子他訳、研究デザイン 質的・量的・そしてミックス法、(日本看護協会出版会)2007. 2 Peggy L Chinn・Maeona K Kramer 著、川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、(エルゼビア・ジャパン)2007. 3 小林康夫他編、「知の論理」「知の技法」、(東京大学出版会)1996. 4 古谷野互他著、実証研究の手引き、(ワールドプランニング)2007. 5 Catherine H.C.Seaman Phyllis J.Verhonic著、西垣克 監訳、松村恵子訳(第14・16章)、看護研究のすすめ方、(医歯薬出版株式会社)1996. 6 池田行伸 他編、子どもの発達と支援、(ナカニシヤ出版)2012. 7 本間友己編著、子どもをめぐる課題への視座と対応、(金子書房)2012. 8 遠藤利彦 他著、乳幼児のこころ—子育て・子育ての発達心理学、(有斐閣)2011.</p>								
成績評価の方法	授業に主体的に対峙する姿勢を重要視し、単元毎の課題報告の内容20%、討論の内容20%、学習課題の成果60%とする。								
オフィスアワー	・在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。								
受講上の留意事項	目的意識を持ち主体的に探究し、学問に対する充実感を高め、学識が深まることをめざしている。								

子ども発達支援看護学特論(Child Development Support Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)								
授 業 の 目 的	子どもの成長・発達と健康及び子育てをする家族の健康に関する理論・概念、関連領域の知識や研究知見について学習し、子どもの健全な成長・発達を促す看護実践方法について探求する。								
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてのプレゼンテーションと討議								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	講義内容と学習の方法						
	2	子どもの理解と生きる	成長発達の一般的原則と発達課題						
	3	力を支える看護	子どもの身体発育及び運動機能の発達と支援						
	4		子どもの心理社会面の発達と支援						
	5		子どもの認知・思考面の発達と支援						
	6		子どもの情動の発達と支援						
	7		子どものことばの発達と支援						
	8		子どもの食機能の発達と支援						
	9	子どもと親・家族の発達を支える看護	子どもの権利						
	10		子どもの育つ環境						
	11		子どもと家族の発達を支える支援体制(保健医療・福祉・教育の多職種連携)						
	12		子どもと家族のヘルスプロモーション						
	13		子どもと親・家族のセルフケアの発達と支援						
	14		子どもと親・家族に必要な支援を明らかにする身体・心理社会的な包括的アセスメント方法の検討						
	15		子どもと親・家族に必要な支援を明らかにする身体・心理社会的な包括的アセスメントと支援の検討						
教 科 書	特に指定しない								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	授業への出席と討議への参加状況(30%)、プレゼンテーション内容(30%)、レポート課題(40%)								
オフィスアワー	メールアドレスを開示し、常に連絡調整できるようにします。								
受講上の留意事項	子どもの世界で観察できる特有の現象を発達理論との関連で理解し、看護実践に結びつく方法論の開発に取り組む気持ちで主体的に学習することを期待します。								

子ども発達支援看護学演習(Seminarin ChildDevelopmentSupportNursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)								
授 業 の 目 的	子どもの成長・発達と健康及び子育てをする家族の健康に関する看護実践方法の開発にむけて、学生の関心領域の文献クリティークと事例検討を行いながら、研究課題について明らかにする。さらに、自己の研究課題の絞り込みを行いながら、研究の視点や適格な方法の選択についての理解を深め、研究計画書の作成を試みる。								
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてのプレゼンテーションと討議、演習を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	学習方法と講義予定						
	2	研究課題の探求	関連文献の紹介						
	3～4		文献検索と整理						
	5～8		主要論文のクリティークと研究課題の明確化						
	9～10	研究方法の検討	研究課題における的確な研究方法の検討						
	11～12	研究倫理	子ども対象の研究における倫理的課題の検討と対応						
	13～15	研究計画の実際	研究計画書作成						
教 科 書	無								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	プレゼンテーション内容(20%)、討議への参加(30%)、課題レポート(40%)								
オフィスアワー	メールアドレスを開示し、常に連絡調整できるようにします。								
受講上の留意事項	子どもの生きる力を支援できる看護を開発していこうとする姿勢を持つこと、主体的に研究課題について探求していくことを期待します。								

女性健康看護学特論 (Women's Health Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	榮 玲子 (Reiko Sakae)								
授 業 の 目 的	生涯を通じた女性の健康支援のために、ライフサイクル各期における女性、母子及び家族の健康問題に対する看護援助のための諸概念・理論・方法論を理解する。 1. 生涯にわたる女性の健康を支援するための諸概念・理論を学ぶ。 2. ライフサイクル各期における女性の心理社会的特性と看護方法論を理解する。 3. 女性、母子及び家族の健康問題を主体的に探求する姿勢を培う。								
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてプレゼンテーションと討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	概念と理論	女性、母子及び家族の健康支援に関連する諸概念と理論						
	3～4	女性の特性	女性の生物学的特性と心理社会的・文化的特性						
	5～8	ライフサイクル別に見た特性と健康問題	ライフサイクル各期における女性の特性と健康問題 ① 思春期・成熟期・更年期・老年期の特性と健康問題 ② マタニティサイクル各期の特性と健康問題						
	9～10	健康問題と看護	女性の健康問題と看護 ① 生活習慣(栄養・運動)と身体特性との関連と看護 ② 性と生殖に関連した健康問題と看護						
	11～13	母子と家族の看護	マタニティサイクル各期における母子と家族の看護 ① 母親役割獲得過程と母親として自立を促す看護援助 母親の子どもに対する愛着と母親意識 ② 乳幼児をもつ母親の育児ストレスと育児支援 ③ 母子及び家族への育児支援とソーシャルサポート						
	14～15	女性への健康支援・看護の検討	生涯を通じた女性の健康支援と看護						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	吉沢豊予子編、女性生涯看護学(真興交易(株)医書出版部) Sharon M. Freeman, Arthur Freeman, Cognitive Behavior Therapy in Nursing Practice, Springer Pub.Co.LLC,NY.[白石裕子監訳、看護実践における認知行動療法(星和書店)] 氏家達夫、親になるプロセス、(金子書房) 山口雅史、母親になるということ-母親アイデンティティを巡る考察(相山女学園大学研究叢書) 南 貴子、人工授精におけるドナーの匿名性廃止と家族(風間書房) その他、適宜、文献資料等を提示・紹介する。								
成績評価の方法	授業への参加度(30%)、プレゼンテーション内容(30%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。								
オフィスアワー	特に設定はしないので、随時対応する。								
受講上の留意事項	知識や理論に基づいて考える力と主体的に学習する姿勢を培い、プレゼンテーションや課題を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待します。								

女性健康看護学演習 (Seminar in Women's Health Nursing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	榮 玲子 (Reiko Sakae)								
授 業 の 目 的	<p>ライフサイクル各期の女性、母子および家族を対象とした看護における課題・問題を考察し、支援方法や管理方法を探究することで、看護実践に必要な能力を養う。</p> <p>1. 女性、母子および家族の健康に関する研究の動向から看護を展望する。 2. 先行研究のクリティークを行い、今後の研究課題について考察する。</p>								
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてプレゼンテーションと討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	学習方法と講義予定 関連文献の紹介						
	2～3	研究の動向	女性、母子および家族の健康に関する研究の動向 ①女性の健康課題・問題と看護に関する研究の動向 ②マタニティサイクルにある母子・家族の看護に関する研究の動向						
	4～7	関連文献の検討	女性、母子および家族の健康に関する関連文献の検討						
	8～11	論文のクリティーク	研究論文のクリティーク						
	12～15	研究課題と方法の検討	研究課題と研究方法の検討						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	適宜、文献資料等を提示・紹介する。								
成績評価の方法	授業への参加度(30%)、プレゼンテーション内容(30%)、課題レポート(40%)で総合的に評価する。								
オフィスアワー	特に設定はしないので、随時対応する。								
受講上の留意事項	プレゼンテーションや課題を通して自分の考えを整理・表現し、研究課題の明確化に向けて、主体的に探究する姿勢と創造的な思考の発展を期待します。								

助産実践学特論(Midwifery Practice Education)										
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	
担 当 教 員	野口 純子(Junko Noguchi)、竹内 美由紀(Miyuki Takeuchi)									
授 業 の 目 的	<p>母子及び家族を対象とした助産の実践に必要な診断技法や援助技術について、研究の概要や用いられる理論、理論と実践の関連性、今日的課題について授業を行い、自己の研究課題を明確にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学領域における量的研究、質的研究、実験研究の意義、特徴、課題を明確にする。 2. 助産実践に必要な基本的な理論を学び、自己の研究課題の探索に活かす。 3. 助産実践に関連する文献を検索し、クリティークを行い研究の基礎的能力を獲得する。 4. 各自で調べた理論や文献の内容を整理要約し発表を行い、基礎的プレゼンテーション能力を獲得する。 5. 自己の研究課題の計画案を試行的に作成し、研究への動機づけを行うとともに研究のプロセスを学ぶ。 									
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてプレゼンテーション、討議、演習を行う。									
	回	項 目	内 容							
授業スケジュール	1	ガイダンス	学習方法と講義予定 (野口)							
	2	助産診断と支持理論	助産診断と支持理論 (野口)							
	3	助産診断とケア理論	助産診断とケア理論 (野口)							
	4	助産学領域の研究の概要	量的研究① (野口)							
	5	助産学領域の研究の概要	量的研究② (竹内)							
	6	助産学領域の研究の概要	質的研究 (野口)							
	7	助産学領域の研究の概要	実験研究① (野口)							
	8	助産学領域の研究の概要	実験研究② (野口)							
	9	課題探求①	助産実践学領域の課題探究 (1) (野口、竹内)							
	10	課題探求②	助産実践学領域の課題探究 (2) (野口、竹内)							
	11~14	自己の研究課題の探究	実践計画(案)の作成、文献検索、研究論文のクリティーク (野口、竹内)							
	15	まとめ	文献のプレゼンテーション (野口、竹内)							
	教 科 書	特に指定しない。								
	参考書・参考資料等	講義のなかで適宜紹介する。								
	成績評価の方法	レポート、発表及び授業への貢献度で評価する。レポート、発表及び授業への貢献度で評価する。								
オフィスアワー	相談がある場合は各授業終了後に希望により個別に応じます。									
受講上の留意事項	受講生の研究課題により内容を変更する可能性があります。研究課題を中心に展開しますので、主体的に学習に取り組んで下さい。									

助産実践学演習 (Seminar in Midwifery Practice Education)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)								
授 業 の 目 的	<p>助産実践学特論の学習内容を基盤にして、助産の実践や研究に活用できるよう助産診断や助産技術に関連する内容について実践、討議、検索を行い、今日的課題を探索し、自己の研究計画に活かす。</p> <p>1. 助産学領域における最新の助産診断、助産技術に関する知見を探索し、問題や実施上の課題などについて検討し、自己の研究課題について明確にする。</p> <p>2. 自己の研究課題について研究計画案を具体的に立案する。</p>								
授 業 の 進 め 方	講義及び課題についてプレゼンテーション、討議、演習を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	ガイダンス	学習方法と講義予定 (野口)						
	3	課題探求①	助産診断、助産技術に関連する文献検索 (野口)						
	4	課題探求②	確認が必要な技術の演習あるいは討議 (野口・竹内)						
	5	課題探求③	"						
	6～7	倫理的問題	助産学領域における研究の倫理的問題と解決策 (野口・竹内)						
	8～9	研究課題の検討	助産学領域の研究テーマを決定するための関連文献の検索、整理 (野口)						
	10～11	研究計画①	研究等倫理委員会申請に向けた研究計画書の検討(討議) (野口・竹内)						
	12～13	研究計画②	発表に向けた研究計画書の修正 (野口・竹内)						
14～15	研究計画③	発表 評価・修正 (野口・竹内)							
まとめ									
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	講義のなかで適宜紹介する。								
成績評価の方法	レポート、発表及び授業への貢献度で評価する。レポート、発表及び授業への貢献度で評価する。								
オフィスアワー	相談がある場合は各授業終了後に希望により個別に応じます。								
受講上の留意事項	受講生の研究課題により内容を変更する可能性があります。研究課題を中心に展開しますので、主体的に学習に取り組んで下さい。								

専攻分野共通科目

精神保健医療福祉システム論 (Theory of Mental Health, Medical and Welfare System)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子 (Hiroko Kunikata)、土岐 弘美 (Hiromi Toki)、井上 典子 (Noriko Inoue)、林 京子 (Kyoko Hayashi)、松下 和子 (Kazuko Matsushita)								
授 業 の 目 的	精神保健医療福祉に関する制度や体制についての変遷や背景を学び、精神保健福祉の動向を踏まえた精神看護CNSの役割や機能について理解を深める。また、対象の視点から、現実にある資源や体制の問題点を抽出し、その上で、精神看護CNSが対象のQOLの向上を目的に、どのように精神保健医療福祉のそれぞれの資源や支援体制を包括的に繋ぐか、その方法を学習する。さらに、現実にある資源や体制の変革を目指したディスカッションを行う。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	精神保健医療福祉に関する法律の変遷	1) 法律の変遷とその背景にある出来事 2) 日本の精神保健医療福祉制度の特徴						
	2~4	精神保健医療福祉施策と制度の現状	1) 精神障害者に関する法律 2) 精神保健・医療・福祉施策と制度の現状 3) 精神科訪問看護制度とその現状						
	5	精神障害者と人権	1) 日本の精神障害者の人権に関する法律 2) 国際的視点から人権を考える						
	6~7	当事者と家族からみた精神保健医療福祉制度の問題	1) 地域で生活する当事者と家族からみる精神保健医療福祉の現状 (問題点) 2) 地域で生活する当事者と家族の視点から精神保健福祉のあり方についてディスカッション						
	8	精神障害者に対する施策の国際比較	1) 諸外国の精神保健福祉と地域生活支援 2) 国際比較による知見の導出						
	9~11	精神保健医療の現況と課題	1) 日本の精神保健医療の現状分析・課題の抽出 2) 日本の精神保健医療制度の将来展望と課題解決に向けて						
	12~14	精神障害者の地域生活支援体制	1) 精神障害者アウトリーチ推進事業、精神障害者地域移行・地域定着支援事業の概要 2) 1)の事業の実際 3) 資源や体制の変革を目指したディスカッション						
	15	まとめ	1) CNSとしての自己の課題の明確化						
教 科 書	適宜紹介する。								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、レポートの成果を統合して評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項									

精神看護アセスメント論 I (Nursing Assessment for Psychiatric patients I)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、二宮 昌樹(Masaki Ninomiya)、三谷 理恵(Rie Mitani)								
授 業 の 目 的	精神看護CNSの卓越した実践能力の基盤であるアセスメント能力の育成を行うために、主な精神疾患の症状と精神医学的診断学ならびに治療学を学ぶ。さらに、薬理効果のアセスメント能力の育成を行うために、精神科薬物療法に用いる治療薬の薬理作用機序(吸収、分布、代謝、排泄)に関する知識を学修し、安全確実な薬剤投与・管理に対する知識を深める。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	精神疾患の分類と診断	1)DSM-IVの多軸評定について 2)精神症状の査定						
	2～7	精神疾患の症状と精神医学的診断学ならびに治療学	1)統合失調症および他の精神病性障害の診断と薬物療法 2)気分障害の診断と薬物療法 3)不安障害の診断と薬物療法 4)一般身体疾患による精神疾患の診断と薬物療法 5)せん妄・認知症・健忘性障害の診断と薬物療法 6)パーソナリティ障害・摂食障害の診断と薬物療法						
	8	アセスメントの演習	スーパーバイザーのもとでアセスメントの演習						
	9～14	治療薬の薬理作用機序とアセスメント	1)薬物の投与方法、薬物動態(薬物の吸収、分布、代謝、排泄) 2)同上(薬物間の相互作用、注意すべき副作用) 3)同上(各剤形の吸収経路と投与時の注意点など) 4)薬理効果と影響を与える様々な因子(性差、年齢、併用薬、体質、併発する疾患、性格など)への対応 5)精神科薬物療法に使用する薬物(抗精神病薬、抗うつ薬) 6)同上(抗不安薬・睡眠薬、抗てんかん薬、パーキンソン症候群治療薬)						
	15	薬物効果と副作用のモニタリングと援助	1)効果と副作用の観察の視点 2)副作用への援助方法						
教 科 書	現代臨床精神医学改訂第11版(金原出版)、DSM-IV-TR精神疾患の分類と診断の手引き(医学書院)、カラー図解これならわかる薬理学(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、カラーイラストで学ぶ集中講義薬理学(メジカルビュー社)、くすりの地図帳(講談社)								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	筆記試験ならびに授業への出席状況、講義課題についての取り組み状況を統合して評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項									

精神看護アセスメント論Ⅱ (Nursing Assessment for Psychiatric patients Ⅱ)										
必須・選択の区別	必修		学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)									
授 業 の 目 的	精神看護CNSとして精神の健康生活の評価ができるようになるために、自我機能、社会機能、家族機能から対象をアセスメントできる能力を高める。さらに、ストレスの視点からアセスメント方法を学ぶ。									
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。									
	回	項 目	内 容							
授業スケジュール	1～3	自我機能とそのアセスメント	1. 精神力動的な考え方からのアセスメント 1)心の構造(イド、自我、超自我)からみた心のアセスメント 2)経済論的観点からみた心のアセスメント 3)力動論的観点からみた心のアセスメント 4)精神力動的な考えを用いて事例をアセスメント							
	4～7	同 上	2. ライフサイクルと発達課題からのアセスメント 1)フロイトの発達論からのアセスメント 2)エリクソンの発達論からのアセスメント 3)上記の発達論を用いて事例をアセスメント							
	8～9	セルフケア理論の視点からのアセスメント	3. セルフケア理論からのアセスメント 1)セルフケア理論を用いてアセスメント・事例検討							
	10～12	ストレスの視点からのアセスメント	4. ストレス理論からのアセスメント 1)個人のストレス(願望・能力・自信)からのアセスメント・事例検討 2)環境のストレス(資源・社会環境・機会)からのアセスメント・事例検討							
	13～14	社会機能・家族機能ならびにソーシャルサポートのアセスメント	5. 社会機能・家族機能・ソーシャルサポートからのアセスメント 1)アセスメントツールを持ちより事例分析・検討							
	15	まとめ	まとめ							
教 科 書	ストレスモデル(金剛出版)、図説 精神分析を学ぶ(誠信書房)、乳幼児の心理的誕生(黎明書房)、ライフサイクル, その完結(みず書房)、セルフケア看護アプローチ(日総研)									
参考書・参考資料等										
成績評価の方法	授業への出席状況、各自の分担課題についてのプレゼンテーションを統合して評価する。									
オフィスアワー	金曜日									
受講上の留意事項										

精神看護セラピー I (Nursing Therapy for Psychiatric patients I)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、田中 恒彦(Tsunehiko Tanaka)								
授 業 の 目 的	精神看護CNSに求められる臨床能力の一つである認知行動療法の理論を学び、対象が今よりも上手にセルフヘルプできることを目指して、認知行動療法的看護介入ができる能力を身につける。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～3	認知行動療法の理論	1) 認知行動療法の理論 2) 認知行動療法の治療総論 3) 精神疾患治療ガイドラインにおける認知行動療法の位置づけ (Evidence Based Medicine)におけるCBT 4) 認知行動療法の脳内メカニズム						
	4～7	認知行動療法の技法	1) CBTのための面接基礎技法 2) 認知と行動を把握する技法(治療を組み立てる技術) ケースフォーミュレーション(行動分析・認知的概念化) 3) 認知と行動を変容する技法(治療をすすめる技術) エクスポーザー、暴露反応妨害法、認知再構成法、シェーピングなど						
	8～10	対象別治療論	1) うつ病の認知行動療法 2) 不安障害の認知行動療法 3) 統合失調症の認知行動療法						
	11	集団認知行動療法	1) 集団認知行動療法の利点 2) 集団認知行動療法の進め方						
	12～15	認知行動療法演習	1) 面接場面のビデオ視聴と事例検討 2) 学生同士による試行CBTとグループスーパーバイズ						
教 科 書	認知行動療法トレーニングブック(医学書院)、方法としての行動療法(金剛出版)、自分を好きになるためのワークブックシートを使って進める自尊心回復グループ認知行動看護療法-(ふくろう出版)、マインドフルネス認知療法-うつを予防する新しいアプローチ(北大路書房)								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	講義・演習への出席状況、事例の展開を統合して評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項									

精神看護セラピーⅡ (Nursing Therapy for Psychiatric patients Ⅱ)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)、竹森 元彦(Motohiko Takemori)、吉岡 真砂子(Masako Yoshioka)								
授 業 の 目 的	リラクゼーションに関連する理論の学習を深め自律神経のバランス回復の視座に立ち、精神疾患患者がストレスマネジメントできるために、また、身体疾患のある患者やターミナル期の患者が緊張を取り除きストレスを緩和できるために、効果的なリラクゼーション看護援助技術を身につける。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～3	リラクゼーションに関連する理論	1)レスポンド条件づけ 2)オペラント条件づけ 3)行動主義 4)新行動主義・応用行動分析 5)社会学習理論						
	4～14	リラクゼーション技法の精神看護への応用	1)リラクゼーション技法の精神看護への応用 2)タッチングの効果に関する先行研究の分析と演習 3)呼吸法の効果に関する先行研究の分析と演習 4)漸進的筋弛緩法の効果に関する先行研究の分析と演習 5)笑いヨーガの効果に関する先行研究の分析と演習 6)上記の援助法を用いて、精神科病院または精神科訪問看護、一般科病院(リエゾン)での演習						
	15	まとめ	まとめ						
教 科 書	リラクゼーション法の理論と実践(医歯薬出版)								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	講義・演習への出席状況、実際の看護援助技術を統合して評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項									

リエゾン精神看護論(Liaison Psychiatric Nursing)										
必須・選択の区別	必修		学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	馬場 華奈己(Kanako Baba)、福田 亜紀(Aki Fukuda)									
授 業 の 目 的	リエゾン精神看護の役割と機能を学び、精神看護の知識や技術を他領域の看護に適用することならびに看護職間の連携を図ることによって対象に良質で効率的なケアの提供ができる能力を高める。また、看護師のメンタルヘルスの向上を支援する能力を養う。									
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。									
	回	項 目	内 容							
授業スケジュール	1	リエゾン精神看護の定義、役割と機能	1)リエゾン精神看護の歴史 2)リエゾン精神看護の定義、役割と機能							
	2~8	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア	1)強度の不安をもつ患者のアセスメントとケア 2)せん妄状態をもつ患者のアセスメントとケア 3)慢性疾患をもつ患者のアセスメントとケア 4)痛みをもつ患者のアセスメントとケア 5)心身症をもつ患者のアセスメントとケア 6)女性の性と生殖に関する健康問題をもつ患者のアセスメントとケア 7)がんをもつ患者へのアセスメントとケア							
	9~10	リエゾン精神看護CNSによるコンサルテーション	1)コンサルテーションのプロセス 2)コンサルテーションの実際							
	11~12	家族支援	1)家族療法の基礎理論と技法 2)家族力動のアセスメントと家族ケア 3)身体疾患患者の家族援助							
	13~14	看護師のメンタルヘルスと支援	1)看護師のメンタルヘルスの必要性 2)メンタルヘルス支援の実際							
	15	組織変革者としてのリエゾン精神看護CNS	1)変化促進者としてのCNSの役割開発と実際 2)管理者によるサポートと協働							
教 科 書	リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために(医歯薬出版)									
参考書・参考資料等										
成績評価の方法	授業への出席状況、講義課題についての取り組み状況を統合して評価する。									
オフィスアワー	金曜日									
受講上の留意事項										

精神看護援助論 I (Nursing Intervention for Psychiatric patients I)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)								
授 業 の 目 的	精神看護領域において実践されている直接ケアを事例検討で深め、精神看護CNSとして、対象者・家族・集団に対する卓越した看護援助ができる能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	オリエンテーション	学習の方向づけ						
	2～14	事例検討とレポート作成	<p>実際に看護した事例について、アセスメント(精神状態のアセスメント、自我機能に関するアセスメント、セルフケアのアセスメント、ストレスによるアセスメント、家族のアセスメント、医療者のアセスメント)、介入計画、その後の経過(成果)についてレポートを作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)急性期統合失調症患者へのアセスメントとケアの事例検討 2)慢性期統合失調症患者へのアセスメントとケアの事例検討 3)気分障害(抑うつ・躁状態)のある患者へのアセスメントとケアの事例検討 4)精神科訪問看護対象者へのアセスメントとケアの事例検討 5)身体疾患患者(リエゾン)へのアセスメントとケアの事例検討 6)処遇困難な患者へのアセスメントとケアの事例検討 						
	15	まとめ							
教 科 書	精神看護スペシャリストに必要な理論と技法(日本看護協会出版会)								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	演習への参加状況、レポート・発表を統合して評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項									

精神看護援助論Ⅱ (Nursing Intervention for Psychiatric patients Ⅱ)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	平木 民子(Tamiko Hiraki)、竹内 美由紀(Miyuki Takeuchi)、土岐 弘美(Hiromi Toki)、江波戸 和子(Kazuko Ebato)								
授 業 の 目 的	卓越した看護実践能力を養うために、精神看護CNSの実際の活動から教育、相談、調整、倫理調整、研究について、さらに組織変革の実際を学ぶ。								
授 業 の 進 め 方	講義および課題についてプレゼンテーションを行い、学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	精神科臨床の組織と評価	1) 組織分析の手法について 2) 組織分析の視点について 3) 公表されたデータからの組織分析						
	3～4	治療チームのダイナミクス	1) チーム医療とは 2) チームワークの発達 3) グループダイナミクスとサブグループ 4) 組織風土 5) 組織の中のコミュニケーション						
	5～6	精神看護CNSの組織への介入(組織変革)の実際	1) 精神看護CNSの組織上の位置づけ 2) 精神看護CNSの組織介入(組織変革)の実際 3) 病棟多職種会議への参加・プロジェクトへの参加						
	7～8	精神看護CNS(教育)の実際	1) 所属病院でのCNSの役割・位置づけ 2) プログラム教育へのかかわり 3) 機会をとらえての教育 4) コンサルテーションを兼ねたスタッフ教育 5) 学生の所属病院における教育案の検討						
	9～10	精神看護CNS(調整)の実際	1) 保健医療福祉に携わる人々のアセスメント 2) 調整の方向性とプロセス 3) 調整が必要な事例検討						
	11～12	精神看護CNS(相談)の実際	1) 患者・家族・医療チームに関する状況のアセスメント 2) 相談の組み立てとプロセス 3) 相談が必要な事例検討						
	13～14	精神看護CNS(倫理調整)の実際	1) 精神科医療現場におけるいろいろな倫理問題 2) 倫理調整の実際						
	15	精神看護CNS(研究)の実際	1) 実践の場における研究活動の重要性 2) 実践の場における研究活動の実際						
教 科 書	チームワークの心理学 よりよい集団づくりをめざして(サイエンス社)								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	講義・演習への出席状況、事例の展開を統合して評価する。								
オフィスアワー	適宜								
受講上の留意事項									

実習科目

精神看護CNS役割実習 (CNS role Practicum in Psychiatric Nursing)									
必須・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	3.0	時間数	120
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)								
授 業 の 目 的	個人、家族及び集団に対する卓越した看護実践能力を有するために、第一段階として実践、相談、調整、教育、倫理的調整を実践している精神看護CNSの活動を主体的に観察・分析し、洞察する。第二段階として、精神看護CNSから教育・監督を受けながら実際に精神看護CNSの機能を実践して学び看護実践現場の変革者としての精神看護CNSの役割について総合的に検討し自己の活動ビジョンを明確にする。また、リエゾン精神看護CNSの活動を主体的に観察・分析し、洞察し、患者と患者をケアする看護師をケアすることによって、より良い医療を促進するためにリエゾン精神看護CNSの役割について総合的に検討し自己の活動ビジョンを明確にする。								
授 業 の 進 め 方	精神看護CNS役割実習は、精神看護CNS役割実習(2週間)とリエゾン精神看護CNS役割実習(1週間)を含む。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール		精神看護CNS役割実習	<p>1) 第一段階として、学生は、病院における精神看護CNSの位置づけと役割を理解するとともに、チーム医療における精神看護CNSの活動内容を観察・分析し洞察する。</p> <p>2) 第二段階として、精神看護CNSからスーパービジョンを受けながら精神看護CNSが受け持つ患者を共に受け持ち、実際に精神看護CNSの機能を実践して学ぶ。</p> <p>3) 観察・分析・洞察ならびに一部の実践について精神看護CNSとのディスカッションを通して、看護実践現場の変革者としての精神看護CNSの役割について総合的に検討し自己の活動ビジョンを明確にする。</p>						
		リエゾン精神看護役割実習	<p>1) 学生は、病院におけるリエゾン精神看護CNSの位置づけと役割を理解するとともに、チーム医療におけるリエゾン精神看護CNSの活動内容を観察・分析し、洞察する。</p> <p>2) リエゾン精神看護CNSとのディスカッションを通して、患者と患者をケアする看護師をケアすることによって、より良い医療を促進するためにリエゾン精神看護CNSの役割について総合的に検討し自己の活動ビジョンを明確にする。</p> <p>精神看護CNS役割実習：松沢病院(北野CNS) リエゾン精神看護CNS役割実習：高知医療センター(福田CNS)</p>						
教科書									
参考書・参考資料等	随時、指導教員が提示する。								
成績評価の方法	実習についてのレポートおよび精神看護CNSを交えたカンファレンス内容を統合して評価する。								
オフィスアワー	適宜								
受講上の留意事項									

精神看護直接ケア実習 (Direct care Practicum in Psychiatric Nursing)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	3.0	時間数	120
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)								
授 業 の 目 的	精神看護CNS役割実習を発展させ、精神看護アセスメント論および精神看護セラピー、精神看護援助論などの知識と技術を統合し、精神看護CNSまたはリエゾン精神看護CNSに必要な高度な直接ケアを展開する。								
授 業 の 進 め 方	学生は実習施設及び学内において、教員ならびに(リエゾン)精神看護CNSのスーパービジョンを受けて実習を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール			<p>精神看護直接ケア実習では、精神看護CNS直接ケア実習あるいは、リエゾン精神看護CNS直接ケア実習を行う。</p> <p>I. 精神看護CNS直接ケア実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期統合失調症患者、慢性期統合失調症患者、気分障害(抑うつ・躁状態)のある患者、精神科訪問看護対象者の4事例程度を受け持ち、精神看護CNSのスーパービジョンのもとに一定期間にわたって担当する。 病棟におけるカンファレンス、他職種とのカンファレンス等に参加し、その場の状況に応じて相談・調整・教育・倫理的調整などの役割を積極的にとる。 教員のスーパービジョンを受け、直接ケア実践の妥当性およびケア提供者自身の役割の取り方、その特徴について洞察を深める。 <p>II. リエゾン精神看護CNS直接ケア実習</p> <ol style="list-style-type: none"> リエゾン精神看護CNS直接ケア実習の導入として、実習施設の組織ならびに看護部組織を理解する。 専門治療として、身体疾患患者(リエゾン)への直接ケアを2事例以上受け持ち、リエゾン精神看護CNSのスーパービジョンのもとに一定期間(導入を含め7週間)にわたって担当する。 教育支援として病棟・治療者への介入、教育連携として病院全体への介入、専門的介入として職員のメンタルヘルスをリエゾン精神看護CNSのスーパービジョンのもとに行う。 教員のスーパービジョンを受け、直接ケア実践の妥当性およびケア提供者自身の役割の取り方、その特徴について洞察を深める。 <p>精神看護CNS実践実習・・・() または リエゾン精神看護CNS実践実習・・・高知医療センター(福田CNS)</p>						
教 科 書									
参考書・参考資料等	適宜提示する。								
成績評価の方法	レポートおよび精神看護CNSを交えたカンファレンス内容を統合して評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項									

臨床検査学分野
専門共通科目

検査総合管理学 (Comprehensive Laboratory Management)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)、多田 達史 (Satoshi Tada)								
授 業 の 目 的	科学的根拠に基づく検査管理能力を養うため、検査室運営法、検体採取からデータ報告までのリスクの防止、対処法について学習する。また、医療経済、医療保障制度、地域医療、医療サービスにおける患者の満足度、経営戦略を通じて医療経営の課題と問題解決法を学ぶ。								
授 業 の 進 め 方	1. 講義は口述を基本に、適宜スライドによるプレゼンテーションも併用する。 2. 講義の最後にその日の講義内容のポイント要点を整理する。 3. 講義中に学生との対話形式を取り入れる。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	検査管理学概論	検査管理の概要を学ぶ。(多田)						
	2	検査室と病院組織	医療機関と検査部門の役割と重要性について学ぶ。(多田)						
	3	検査室組織運営	業務管理、将来への戦略について考える。(多田)						
	4	検査管理1	精度管理概論について学習する。(多田)						
	5	検査管理2	検査依頼と受付・報告とその管理について学ぶ。(多田)						
	6	検査管理3	測定法の妥当性、評価と選択方法について学ぶ。(多田)						
	7	検査管理4	基準範囲、臨床的判断基準、個別データ管理。(多田)						
	8	検査情報の活用	予防医学、チーム医療における検査情報の活用法を考える。(多田)						
	9	検査の標準化 病院経営	遺伝子検査の標準化と診療報酬。(中村)						
	10	医療保険制度(1)	病院経営と診療報酬が決まるまで。(中村)						
	11	医療保険制度(2)	医療保険の種類と構成や保障内容。(中村)						
	12	医療保険制度(3)	現物給付と償還払い。基本診療料と特掲診療料、DPC方式。(中村)						
	13	医療保険制度(4)	混合診療、選定療養、評価療養。(中村)						
	14	医療保険制度(5)	医療費の自己負担と免除。(中村)						
	15	医療保険制度(6)	診療報酬支払基金。(中村)						
教 科 書	最新 医療費の基本と仕組みがよ〜くわかる本[第3版](秀和システム) プリント資料								
参考書・参考資料等	社会保障の手引き(中央法規)								
成績評価の方法	レポート								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項									

医療情報管理学 (Medical Informatics)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	立石 謹也 (Kinya Tateishi)								
授 業 の 目 的	医療情報は疾患の予防、診断、治療に不可欠であり、その管理は重要である。近年、情報技術の進展とともに診療録等の扱いは大きく変革している。チーム医療の中で医療情報の管理や活用、また情報開示に伴う倫理問題に対応可能な人材育成を目指す。さらに、さまざまな医療分野においてEvidence-based Medicine (EBM)の概念の重要性が強調されている今日、医療情報解析の立場から科学的根拠を提供し活用する能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	プリント資料やパワーポイントを用いて講義を進めていくが、課題についてプレゼンテーションや学生間の討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	医療情報処理概論	医療における情報システムについて						
	2	病院情報システム	病院情報システムの概要と機能について						
	3	医療情報の標準化	標準化の目的と意義						
	4	チーム医療と医療情報	チーム医療推進のための基本的考え方						
	5	〃	チーム医療における臨床検査技師の役割について						
	6	医療記録の電子化	診療記録の電子化(電子カルテ)と標準化について						
	7	広域の医療情報システム	広域システムに利用される情報技術と地域医療ネットワークシステムについて						
	8	医療支援のためのデータ分析と評価	診療データの二次利用と病院管理のための情報分析について						
	9	EBMと臨床疫学	EBMとコホート研究、介入研究について						
	10	疫学研究の実際	循環器疾患疫学研究の実際について						
	11	臨床試験概論	臨床試験とヘルシンキ宣言						
	12	疾患の遺伝学	さまざまな遺伝性疾患と遺伝要因の同定法についての簡単な解説						
	13	ゲノム情報システム	プロテオミクスとクリニカルバイオインフォマティクス						
	14	医療情報の倫理	ジュネーブ宣言と医療情報倫理、医療情報管理の安全性について						
	15	まとめ	総括(医療情報システムと臨床検査の関わりについての討論会)						
教 科 書	プリント等を配布する。								
参考書・参考資料等	医療情報 第2版 医療情報システム編(篠原出版新社)、臨床生命情報学入門(杏林図書)								
成績評価の方法	最終レポート(80%)及び授業への貢献度(20%)で総合的に評価する。								
オフィスアワー	随時対応する。								
受講上の留意事項	プレゼンテーションや討議において、自分の考えを整理・表現できるように常日頃より練習しておくこと。								

環境衛生論 (Health and Environmental Sciences)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	奥田 潤 (Jun Okuda)、眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)、須那 滋 (Shigeru Suna)								
授 業 の 目 的	生物は環境の中に生存しており、その環境は生物とさまざまな形で相互的に作用しあっている。特に、ヒトは環境から多種多様な物理的、生物的及び化学的危険因子に暴露する可能性が高くなっている。そこで、環境中のそのような危険因子とヒトの健康との相互関係や、環境中における病原因子について学習する。								
授 業 の 進 め 方	予防医学や自然環境問題における環境衛生の意義とその役割について学習する。さらに、学習した内容について自ら探求し、レポートに考察する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	現代の環境と感染症	新興・再興感染症、滅菌・消毒、ワクチン (奥田) 地球環境の危機、生存基盤の物質循環、外来種 (眞鍋) 大気汚染、海洋汚染、土壌・生物汚染、ホルモン攪乱物質 (眞鍋) 新人類(ホモサピエンス)と地球、古代ギリシャ人の疾病観、ミアズマと感染症、産業革命と環境汚染、地球化学物質汚染、UNEP世界行動計画 (須那) クライテリア・ガイドライン・スタンダード・ゴール、地域環境基準、食品衛生基準、室内環境基準と健康問題、環境汚染(PM2.5、環境タバコ煙ほか)、食糧問題 (須那) 作業環境管理・作業管理・健康管理、作業環境の評価、個人曝露と生物学的モニタリング、許容濃度、労働安全衛生マネジメントシステム、化学物質リスクとコントロールバンディング、アスベスト問題、ナノ粒子と健康 (須那) 環境疫学と環境毒性学、実質安全用量、ユニットリスク (須那)						
	3～4	環境汚染と生態系							
	5～6	環境汚染による健康影響							
	7～8	環境と健康の歴史的考察							
	9～11	地域・生活環境要因と健康							
	12～14	労働環境要因と健康							
	15	まとめ							
教 科 書	関連論文、資料を講義の中で適宜紹介する。								
参考書・参考資料等									
成績評価の方法	レポート及び口頭試問により評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	1回の授業時間:90分								

食理学(ESCAOLOGY)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15
担 当 教 員	立石 謹也(Kinya Tateishi)、山主 智子(Tomoko T. Yamanushi)								
授 業 の 目 的	医療職の専門家として食の機能を理解し、現状で起こっている食の問題点の整理と食の安全性に影響を与える因子(リスク)について分析し、消費者や患者に対して安全な食品が摂取できる指導者としての能力を養う。さらに、健康食品や食全般の安全性についての分析検査技術を習得し、得られた科学的根拠データをもとに評価できる能力(科学的手段すなわち真正評価できる技術)を養う。								
授 業 の 進 め 方	オムニバス方式で行う。 プリントを用いて講義するが、パワーポイントやビデオも適宜利用する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	食理学(ESCAOLOGY)とは、現状の食における社会状況	食理学概論、食の機能、現状における食の社会状況、食の安全は確保されるか、新しい食品の安全性問題について考える (立石)						
	2	日本の食品は本当に問題があるのか? についての検証	日本の食品は本当に問題があるのかについて多方面から検証を行う (立石)						
	3	”	” (立石)						
	4	食の安全・安心を担保する法規は何か	食品衛生とは、食品の安全確保、食品の安全性の考え方、日本における食品安全に関する法規について (立石)						
	5	食の安全・安心における企業の取組、食品表示の嘘の現状	消費者が求める食品の選択基準、不正は何故起きるのか、食品偽装事件の検証、企業の取組みについて (立石)						
	6	嘘を見破る真正評価技術	真正評価技術の実際について (立石)						
	7	学生による課題発表	「食品についての問題」を新聞等よりトピックスを取り上げ発表する (立石)						
	8	栄養素としての食の重要性	食の持つ機能、栄養素の役割について学ぶ (山主)						
教 科 書	プリント資料								
参考書・参考資料等	食品の安全性に関する用語集(食品安全委員会)、メディア・バイアス 松永和紀(光文社新書)、ESCAOLOGY 松尾雄志(生物試料分析Vo130, No8)								
成績評価の方法	研究者意識をもった授業への積極的な参加(20%)と最終レポート(80%)により総合的に評価する。								
オフィスアワー	研究室にて随時対応する。								
受講上の留意事項	講義の資料等は適宜配布する。								

検査研究方法論 (Research Methodology in Medical Sciences)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15
担 当 教 員	加太 英明 (Hideaki Kabuto)、多田 達史 (Satoshi Tada)								
授 業 の 目 的	保健・医療分野の研究方法について基本的な構成を学び、自らが研究課題に対して解決できる能力を養う。具体的には研究方法の種類、トピックス・研究課題の見つけ方、文献検索法、仮説の立て方、研究デザイン法、データの収集とデータ解析法について修得し、得られた成果を論文作成法や学会発表等で表現できる能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	講義の初めに配布された資料を基に、講義を受ける。また時間ごとに出示された課題を基にディスカッションを行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	研究例	研究事例の報告、トピックス、課題の見つけ方 (加太)						
	2	研究を始める前に	文献検索、資料の整理、研究目的や仮説の考え方 (加太)						
	3	研究方法	研究方法の選択、研究のデザインの仕方 (加太)						
	4	倫理規定	倫理規程、人権問題について (加太)						
	5	データの収集と処理	データ収集と測定、データの統計解析について (多田)						
	6	学会発表・論文作成	論文作成、学会発表・スライド作成方法 (多田)						
	7	論文投稿	論文投稿・投稿規程等、課題発表方法 (多田)						
教 科 書	授業の資料等は適宜配布する。								
参考書・参考資料等	保健・医療のための研究法入門 朝倉隆司 協同医書出版社(参考) 科学者を目指す君たちへ-研究者の責任ある行動とは- 米国科学アカデミー編 化学同人(参考)								
成績評価の方法	研究者意識をもった授業への積極的な参加と、最終レポートにより評価する。								
オフィスアワー	加太: 随時。捕まらない場合は "kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp" へmail。 多田: 随時。捕まらない場合は "tada@chs.pref.kagawa.jp" へmail。								
受講上の留意事項	指導担当教員と相談して、自分のテーマにあった考え方、研究方法などをディスカッション時に積極的に発表するよう心掛けること。								

病態機能検査学
領域科目

生体機能検査学特論 (Advanced Course of Physiological Technology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	塩田 敦子 (Atsuko Shiota)								
授 業 の 目 的	健康寿命の延伸が社会的にも望まれており、性差医療の観点から更年期以降の女性のwell agingが注目されている。女性は閉経後エストロゲンの低下にともない脂質異常症、高血圧、肥満及び糖尿病などの生活習慣病患者が急激に増加する。これら循環生理領域の疾患の病態生理を十分理解し、対策を講じることが求められており、そのために有効な生体機能検査法であるCAVI検査をはじめ頸動脈エコー、末梢血管の脈波、血流ドブラ法、呼吸機能検査法、自律神経検査など種々の検査法の基礎と応用について学習する。								
授 業 の 進 め 方	主に講義形式で授業を行うが、実技、グループワーク、事前学習、プレゼンテーション、討議などの方式を用いながら、検査を行うことは対象とのコミュニケーションであること、結果について考えることを中心に学んでもらう。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	学習の方法、講義の予定						
	2～3	性差医療について	性差医療の概念、実際について						
	4～5	疾患の病態①	脂質異常症・肥満の病態と検査法について						
	6～7	疾患の病態②	糖尿病・高血圧症・骨粗鬆症等の病態と検査法について						
	8～9	疾患の病態③	加齢にともなう呼吸器疾患の病態と検査法について						
	10～11	検査法とよみかた①	動脈硬化の検査 (CAVI、ABI等)・頸動脈エコーについて						
	12	検査法とよみかた②	種々の呼吸機能検査について						
	13	検査法とよみかた③	種々の自律神経機能検査について						
	14	検査法とよみかた④	種々の骨量検査について						
	15	まとめ	性差医療と生体機能検査						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	プリント、他は必要な時に指定する。								
成績評価の方法	出席の状況 10%、実技、レポート、討議 90%								
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問・相談を受け付けます。								
受講上の留意事項	意見や質問を歓迎し、授業への積極的な参加を希望します。								

生体機能検査学演習 (Seminar in Physiological Technology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	塩田 敦子 (Atsuko Shiota)								
授 業 の 目 的	<p>特論で学んだ知識をもとに、閉経後女性の循環生理領域における疾患の病態生理を十分理解し、その基盤の上に立ち病態の本質に迫る基礎的研究能力の習得を目指す。</p> <p>国内外の先行研究の文献抄読、レポート作成を行い、性差医療の発展に役立つような研究課題をみつけ、その研究に必要な検査手法、解析法等についても理解を深め、演習を通じて、臨床に役立つ、安全でエビデンスのある臨床的研究能力をも養うことを目的とする。</p>								
授 業 の 進 め 方	課題に沿った国内外における先行研究の文献抄読を行い、レポートを作成、興味のある文献については内容をまとめてプレゼンテーションし、討議を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	学習の方法、演習の予定						
	2～5	閉経後女性の循環生理領域の変化と疾患	国内文献の抄読、レポート作成						
	6～11		海外文献の抄読、レポート作成						
	12～13		最も興味のある文献についてプレゼンテーション作成						
	14～15	まとめ	プレゼンテーション、討議						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	プリント、他は必要な時に指定する。								
成績評価の方法	レポート、プレゼンテーション、演習への貢献度により評価する。								
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問・相談を受け付けます。								
受講上の留意事項	意見や質問を歓迎し、授業への積極的な参加を希望します。								

病態解析検査学特論 (Special Topics in Clinical Pathology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	樋本 尚志 (Takashi Himoto)								
授 業 の 目 的	自己抗体の産生される機序および測定法について理解する。特に、肝疾患において出現する自己抗体の臨床的意義について習得する。								
授 業 の 進 め 方	ガイダンスを行った後に、それぞれのテーマについて各自で文献を検索してまとめる。まとめた結果を発表し、出席者全員で討論していく。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	講義の進め方、講義予定、テーマ分担決定						
	2	自己抗体1	自己抗体の産生される機序						
	3	自己抗体2	自己抗体の測定法とその判定法						
	4	自己抗体3	臓器非特異的自己抗体						
	5	自己抗体4	臓器特異的自己抗体						
	6	自己抗体5	自己抗体の臨床的意義						
	7	自己免疫性肝疾患1	自己免疫性肝疾患の診断						
	8	自己免疫性肝疾患2	自己免疫性肝疾患の成因						
	9	自己免疫性肝疾患3	自己免疫性肝疾患の治療						
	10	ウイルス性肝炎	ウイルス性肝炎肝において出現する自己抗体						
	11	薬物性肝障害	薬物性肝障害において出現する自己抗体						
	12	アルコール性肝障害	アルコール性肝障害において出現する自己抗体						
	13	肝細胞癌	肝細胞癌において出現する自己抗体						
	14	他の悪性腫瘍	他の悪性腫瘍に出現する自己抗体						
	15	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームに出現する自己抗体						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	講義の都度、参考文献は提示する。								
成績評価の方法	レポートおよび講義への貢献度で評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	討論の際には、積極的な発言(質問や助言)を期待する。								

病態解析検査学演習 (Seminar in Clinical Pathology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	樋本 尚志 (Takashi Himoto)								
授 業 の 目 的	課題テーマに関連した文献を購読し、肝疾患の診断や病態に必要な臨床検査について学ぶ。								
授 業 の 進 め 方	課題テーマに関連した文献を購読したあと、論文の内容をまとめてプレゼンテーションする。その後、出席者全員で討論して課題テーマの内容を深める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2~14 15	ガイダンス 発表 総括	学習方法とプレゼンテーションの仕方 課題テーマに関連した文献の抄読と討議 総合討論						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	講義の都度、参考文献は提示する。								
成績評価の方法	レポートおよび講義への貢献度で評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	聴講している人に理解しやすいプレゼンテーションを心がける。								

病理病態検査学特論(Pathophysiology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	平川 栄一郎(Eiichiro Hirakawa)								
授 業 の 目 的	疾病を理解する上で、肉眼的な臓器の変化や顕微鏡で観察される細胞や組織の形態学的変化を捉えることは重要である。それに加えて疾病の生理学的、生化学的な機能の変化を解析し、形態的变化と有機的に結合させて、病気の成因や発生のメカニズム、病理病態的な理論を構築する方法を学習する。								
授 業 の 進 め 方	その回ごとのテーマを決めて、参考図書や最近の論文をもとにディスカッション形式で授業を進めていく。そのため、事前に参考図書や論文の予習が必要である。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	総論	ガイダンス 学習の方法と講義予定						
	2	病理病態学(1)	細胞障害と細胞死						
	3	病理病態学(2)	細胞の適応と修復						
	4	代謝障害(1)	糖質代謝、脂質代謝、蛋白質・アミノ酸代謝						
	5	代謝障害(2)	生体色素代謝、無機物代謝						
	6	内分泌障害(1)	下垂体、甲状腺						
	7	内分泌障害(2)	上皮小体、副腎						
	8	環境障害(1)	環境汚染、化学物質						
	9	環境障害(2)	物理的因子、栄養性疾患						
	10	免疫障害(1)	免疫系の細胞、組織傷害の免疫学的機構						
	11	免疫障害(2)	自己免疫疾患、免疫不全症						
	12	腫瘍の分子病理(1)	癌遺伝子と癌、癌遺伝子の活性化						
	13	腫瘍の分子病理(2)	癌抑制遺伝子、アポトーシスを調整する遺伝子						
	14	腫瘍の分子病理(3)	DNA修復遺伝子、多段階発癌の分子レベル						
	15	腫瘍の分子病理(4)	癌の原因、腫瘍免疫						
教 科 書									
参考書・参考資料等	ロビンス基礎病理学(廣川書店) 外科病理学(文光堂)								
成績評価の方法	レポート及び授業への貢献度により評価する。								
オフィスアワー	メール: hirakawa@chs.pref.kagawa.jp								
受講上の留意事項									

病理病態検査学演習 (Seminar in Pathophysiology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)								
授 業 の 目 的	疾病による細胞、組織の変化について形態学的解析及び分子病理学的、生化学的解析について方法論を討議し、文献的理解を深める。そこから各自の研究課題を明確にできるよう討議し、修士論文作成を容易にする。								
授 業 の 進 め 方	1回の授業時間:90分 課題については担当教員の適宜指導を受ける。 課題についての予習を行い、講義及び課題について討議とプレゼンテーションを行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	総論	ガイダンス 学習の方法と講義予定						
	2~4	各論(1)	院生が選択した研究の主題に関する研究論文の討議、批評を行う。						
	5~7	各論(2)	研究の主題に関する方法論を具体的に検証、実施し、各自の研究主題へ反映するように工夫する。						
	8~10	各論(3)	院生相互による各自の研究に関連した研究論文の発表を実施し、総合討論のあと教員の指導を受ける。						
	11~13 14~15	各論(4) 各論(5)	研究論文の発表を実施し、教員の指導を受ける。 授業で提示された課題について、グループ討議を行い検討する。						
教 科 書									
参考書・参考資料等	講義の中で適宜紹介する。								
成績評価の方法	レポート及び授業への貢献度により評価する。								
オフィスアワー	メール: hirakawa@chs.pref.kagawa.jp								
受講上の留意事項									

血液病態検査学特論 (Special Theory of Laboratory Hematology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)								
授 業 の 目 的	血液疾患の成因・病態、病理像(血液, 造血組織, 細胞学的, 分子学的)を深く追求理解し、疾病の本態を考察する。さらに文献検索や発表・討論をすることで、血液疾患の予防、早期発見、治療、病態解析に有用な検査の知識と将来に向けた応用力を習得する。								
授 業 の 進 め 方	血液疾患の成因・病態、病理像に加え、学部教育では浅かった「治療」や「分子学的な変化」から疾患の本態を考察するように授業を進める。 文献検索および発表や討論することで、個々の理解を再確認するように進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス							
	2~3	血液疾患 I	赤血球疾患						
	4~5	血液疾患 II	白血球疾患						
	6~7	血液疾患 III	出血性疾患						
	8~9	血液疾患 IV	凝固・線溶関連疾患						
	10~11	血液疾患 V	血栓性素因・紫斑病						
	12	血液検査学 I	血液細胞の単離・培養						
	13	血液検査学 II	造血細胞解析・シグナル伝達						
	14	血液検査学 III	遺伝子発現、導入						
	15	先端検査技術							
教 科 書	特に指定しない								
参考書・参考資料等	適宜紹介する								
成績評価の方法	レポートにより評価する								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項									

血液病態検査学演習 (Seminar in Laboratory Hematology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)								
授 業 の 目 的	国内外の血液病学・血液検査学に関連する論文分析を行い、研究の動向や方法を習得する。さらに論文解析から血液検査学領域における問題点を探求し、有効な検査法開発に向けた創造能力を習得する。								
授 業 の 進 め 方	興味ある血液関連の論文を解析し、まとめてプレゼンテーションする。 論議の中から、各自の研究課題に関連する背景を明確にし、研究の遂行や応用について討議していく。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2~3 4~9 10~13 14~15	ガイダンス 研究課題 文献検索 文献まとめ 発表	学習法と研究法について 課題テーマの模索 文献検索、PP発表、討議						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	レポート、プレゼン、口頭試問等により評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	1 実習及び論文解析はグループ学習とする。 2 プレゼンテーションは個人発表とする。								

病因解析検査学
領域科目

病原因子検査学特論(Pathogenic Microbiology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	奥田 潤(Jun Okuda)								
授 業 の 目 的	病原微生物による感染症の発症機序や病態解析についての理解を深める。特に感染症の主要な原因となる病原因子の作用機序についての学習を通して、病原因子の本体を探る研究や検査の実態を把握するとともに、新しい検査方法を開発するための基礎的能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	各論では講義を中心に授業を進める。最後の2回の講義では、各論で学習した内容を踏まえて、与えられた課題についてのレポートを作成し、理解を深め、さらに考察する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	感染症と生体防御機構	自然免疫と獲得免疫について						
	3	感染症の疫学	新興感染症と再興感染症の広がりについて						
	4～5	病原因子	病原微生物の産生する病原因子について						
	6～8	作用機序	病原因子の作用機序について						
	9～10	検査方法	病原因子と検査方法について						
	11～13	研究方法	病原因子と研究方法について						
	14～15	まとめ	感染症の原因となる病原因子について考える課題とレポート作成						
教 科 書	関連資料を講義の中で適宜紹介する。								
参考書・参考資料等	臨床検査学講座[第3版] 微生物学/臨床微生物学(医歯薬出版)、系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学疾病のなりたちと回復の促進④[第12版]2015年版 (医学書院)								
成績評価の方法	レポートにより評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	理解を深めるために、予習・復習を行うことが望ましい。								

病原因子検査学演習 (Seminar in Pathogenic Microbiology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	奥田 潤 (Jun Okuda)								
授 業 の 目 的	感染症を引き起こす病原微生物による様々な病原因子について、その特性や作用機序などを多くの研究論文をもとに学習し、感染症の予防や検査方法の開発につながる知識を深めることを目標として演習を行う。								
授 業 の 進 め 方	配布した研究論文を講読した後、レポートおよび口頭試問を行う。さらに、最終的に興味のある研究論文についてまとめを作成し口頭発表を行うことで、発表スライドの作成法や口頭発表の仕方について再確認する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	授業の進め方と学習方法について						
	2~4	病原微生物	病原微生物研究に関する文献講読とレポート						
	5~7	病原因子検査	病原因子検査に関する文献講読とレポート						
	8~10	病原因子の作用メカニズム	病原因子の作用メカニズム解明に関する文献講読とレポート						
	11~13	感染防御	感染防御に関する文献講読とレポート						
	14~15	まとめ	最も興味のある文献についてパワーポイントでまとめを作成し、口頭発表						
教 科 書	関連資料を講義の中で適宜紹介する。								
参考書・参考資料等	臨床検査学講座[第3版] 微生物学/臨床微生物学(医歯薬出版)								
成績評価の方法	レポート、口頭試問および口頭発表により評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	文献講読には、基本的に英語の文献を使用する。								

生体防御検査学特論 (Lecture in Clinical Immunology)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	行正 信康 (Nobuyasu Yukimasa)								
授 業 の 目 的	生体防御システムで重要な“免疫”の分子細胞遺伝学的なメカニズムを整理する。クローン選択により作動する抗原特異的リンパ球により媒介される適応獲得免疫応答を中心に考える。大きな3つの主題、①異物を認識する方法、②リンパ球が外界の非自己分子に対する受容体をもつに到る分化の過程、③病原微生物を排除するエフェクター機能について理解を深める。								
授 業 の 進 め 方	課題についてのプレゼンテーションとディスカッションを実施する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	免疫学の基礎概念	免疫応答の概要と免疫担当細胞・器官 (講義)						
	2	自然免疫系	自然免疫に関わる細胞と分子機構						
	3		(本メカニズムのプレゼンテーションとディスカッション)						
	4	パターン認識機構	パターン認識の分子機構						
	5		(本メカニズムのプレゼンテーションとディスカッション)						
	6	補体活性化経路	補体活性化の分子機構						
	7		(本メカニズムのプレゼンテーションとディスカッション)						
	8	抗体分子の構造	免疫グロブリン分子構造の特徴と機能						
	9		(本メカニズムのプレゼンテーションとディスカッション)						
	10	T細胞受容体と主要適合性抗原複合体	T細胞受容体 (TCR) と主要組織適合性抗原複合体 (MHC) の相互作用						
	11		(本メカニズムのプレゼンテーションとディスカッション)						
	12	リンパ球抗原受容体	リンパ球抗原受容体 (BCRとTCR) 遺伝子再構成のメカニズム						
	13	遺伝子再構成	(本メカニズムのプレゼンテーションとディスカッション)						
	14	抗原受容体の多様性	抗体レパートリー増大のための二次的多様性の導入						
	15	獲得メカニズム	(本メカニズムのプレゼンテーションとディスカッション)						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	“Janeway's Immunobiology 7th Edition” (Garland Science)								
成績評価の方法	プレゼンテーションとディスカッション、およびレポートにより評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	科学的根拠に基づいた考察力・判断力を身に付ける目的意識をもつことが重要となる。								

生体防御検査学演習 (Seminar in Clinical Immunology)										
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	
担 当 教 員	行正 信康 (Nobuyasu Yukimasa)									
授 業 の 目 的	医療はポストゲノム時代を迎え、分子生物学的技術の進歩が病態診断に必要な遺伝子検査を可能にした。生体防御検査においても遺伝子解析は有用であり、その意義を科学的根拠に基づいて理解する必要がある。臨床免疫学領域では、ウイルス感染症の抗原抗体マーカー検査と核酸検査、HLA遺伝子型と能動免疫(ワクチン)との関係などを考察することが可能である。									
授 業 の 進 め 方	課題テーマについてのプレゼンテーションを実施しディスカッションを行う。									
	回	項 目	内 容							
授業スケジュール	1	肝炎ウイルス免疫検査と遺伝子解析	B型肝炎ウイルス(HBV)の遺伝子構造							
	2		HBV-DNA定量検査、HBV遺伝子型							
	3		ワクチンエスケープHBV							
	4		HBVプレコア変異・コアプロモータ変異							
	5		HBV薬剤耐性と遺伝子変異							
	6		新しいHBV検査の進歩							
	7		C型肝炎ウイルス(HCV)の核酸解析の有用性							
	8	HBVワクチン免疫応答のメカニズム	能動免疫(ワクチン)における生体内免疫反応							
	9		ワクチン免疫不応答の機序							
	10		ワクチン免疫不応答因子の研究手法							
	11		HLA DNAタイプの影響							
	12		サイトカイン遺伝子多型の影響							
	13		課題の検討とまとめ	課題発表①						
	14			課題発表②						
	15			まとめ						
教 科 書	特に指定しない。									
参考書・参考資料等	“Janeway's Immunobiology 8th Edition” (Garland Science)、遺伝子分析科学(日本臨床検査同学院 編集・宇宙堂八木書店) 等									
成績評価の方法	プレゼンテーション・ディスカッションおよびレポート等により評価する。									
オフィスアワー	随時									
受講上の留意事項	科学的根拠に基づいた考察力を身に付ける目的意識をもつことが重要となる。									

生体化学検査学特論 (Biological Chemistry)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	多田 達史 (Satoshi Tada)								
授 業 の 目 的	脂質代謝の基礎的知識を十分に理解し、動脈硬化性疾患と脂質代謝が病態生理にどのような関わっているかを学ぶ。また酸化・糖化などの変成物質の関連性について理解を深める。さらに動脈硬化と生活習慣や食品との関係について学習する。								
授 業 の 進 め 方	講義はプリント資料、パワーポイントを用いて行う。 講義中に対話形式も取り入れ、内容を整理していく。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	脂質代謝の基礎	LDL代謝、HDL代謝を基本にした脂質代謝の基礎						
	2	リポ蛋白と動脈硬化	リポ蛋白異常の診断、レムナント、small dense LDLと動脈硬化						
	3	動脈硬化の診断	動脈硬化性疾患の診断基準、ガイドライン						
	4	動脈硬化と炎症	炎症とアディポサイトカイン、マクロファージ機能など						
	5	動脈硬化メタアナリシス	メタアナリシスの種類と臨床への影響						
	6	動脈硬化管理	動脈硬化のリスクファクターとその包括的管理						
	7	潜在性動脈硬化症	潜在性冠動脈硬化症、脳血管疾患、腎臓病について						
	8~10	糖尿病と動脈硬化症	高血糖リスク、糖化関連物質との関係、高血糖状態とリポ蛋白代謝						
	11	動脈硬化と飲酒	アルコール摂取と脂質代謝、冠動脈・循環器疾患						
	12	動脈硬化と喫煙	喫煙習慣と冠動脈疾患・高血圧・循環器疾患						
	13~15	動脈硬化予防	リスクスコアと使用法、動脈硬化バイオマーカーなど						
教 科 書	プリント資料								
参考書・参考資料等	適時、指示、紹介する。								
成績評価の方法	レポート(30%)、試験(70%)で評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項									

生体化学検査学演習 (Seminar in Biological Chemistry)									
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	多田 達史 (Satoshi Tada)								
授 業 の 目 的	<p>リポ蛋白代謝や糖代謝に関連する、異常リポ蛋白の生成及び代謝を学ぶ。</p> <p>さらに、異常リポ蛋白質、糖化蛋白、終末糖化産物 (AGEs) の検出について文献を講読し、研究の視点や分析方法について理解を深める。</p>								
授 業 の 進 め 方	<p>講義はプリント資料、パワーポイントを用いて行う。</p> <p>講義中に対話形式も取り入れ、内容を整理していく。</p>								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～10	リポ蛋白異常症と動脈硬化	<p>レムナントと動脈硬化症</p> <p>small dense LDLと動脈硬化症</p> <p>糖尿病のリポ蛋白異常</p> <p>メタボリックシンドロームのリポ蛋白異常</p> <p>サイトカインと動脈硬化</p> <p>マクロファージと動脈硬化</p> <p>血小板と動脈硬化</p>						
	11～15	AGEs (advanced glycation end-products) について	<p>AGEs (終末糖化産物) の基礎と病態</p> <p>メイラード反応産物の糖特異性と抗酸化性</p> <p>AGEs (終末糖化産物) の測定</p>						
教 科 書	プリント資料								
参考書・参考資料等	適時、指示、紹介する。								
成績評価の方法	レポート(30%)、試験(70%)で評価する。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項									

遺伝子検査学特論 (Advanced Genetic Testing)									
必須・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)								
授 業 の 目 的	遺伝子増幅法などの遺伝子検査で用いられる技術に関して原理を中心に理解する。遺伝子の基礎を学ぶことで、遺伝子カウンセリングの能力を習得する。さらに遺伝学的検査を行うにあたり、検体の管理および倫理的諸原則について学ぶ。								
授 業 の 進 め 方	スライドを用い視覚的理解を深める。一部で反転授業を導入し、学生主導型授業を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	遺伝子検査技術1	遺伝子検査技術のまとめ1						
	2	遺伝子検査技術2	遺伝子検査技術のまとめ2						
	3	遺伝学的検査	遺伝学的検査のまとめ						
	4	検査ガイドライン1	実習安全管理指針						
	5	検査ガイドライン2	針刺し事故対応マニュアル						
	6	検査ガイドライン3	検体品質管理マニュアル						
	7	検査ガイドライン4	検査品質保証のための指針						
	8	検査ガイドライン5	遺伝子解析研究に関する倫理指針						
	9	検査ガイドライン6	ヒト遺伝子検査受諾に関する倫理指針						
	10	検査ガイドライン7	ヒト対象の研究の倫理原則(ヘルシンキ宣言)						
	11	検査ガイドライン8							
	12	検査ガイドライン9	患者人権に関する世界宣言(ユネスコ宣言)						
	13	検査ガイドライン10							
	14	検査ガイドライン11	その他の法令や指針						
	15	臨床に有用な検査	臨床に有用な遺伝子検査						
教 科 書	染色体遺伝子検査の基礎と応用(日本臨床衛生検査技師会)								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	期末筆記試験								
オフィスアワー	適宜受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。								
受講上の留意事項									

遺伝子検査学演習 (Genetic Testing seminar)									
必須・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)								
授 業 の 目 的	保険収載されている遺伝子検査について、臨床的意義や検査法について理解する。遺伝子発現が関与する主な細胞内および細胞間シグナル伝達系について学び、その中から遺伝子発現を制御する遺伝子をいくつか取り上げ、診断や治療の新しいマーカーとなり得る遺伝子を探る。								
授 業 の 進 め 方	スライドを用い視覚的理解を深める。一部で反転授業を導入し、学生主導型授業を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	保険適応の検査1	原理、検査法、臨床的意義について学ぶ。						
	2	保険適応の検査2							
	3	保険適応の検査3							
	4	遺伝子発現と制御1	遺伝子の発現と制御について学ぶ。						
	5	遺伝子発現と制御2							
	6	シグナル伝達1	様々なシグナル伝達の機構について学ぶ。						
	7	シグナル伝達2							
	8	シグナル伝達3							
	9	シグナル伝達4							
	10	細胞周期1	細胞周期とそれに関わる分子について理解する。						
	11	細胞周期2							
	12	がんのメカニズム1	がんの誘因および進展のメカニズム、さらにアポトーシスなどについて学ぶ。						
	13	がんのメカニズム2							
	14	がんの遺伝子検査1	臨床的に有用な遺伝子検査の候補を挙げ検討する。						
	15	がんの遺伝子検査2							
教 科 書	医薬分子生物学(南江堂)								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	期末筆記試験								
オフィスアワー	適宜受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。								
受講上の留意事項									

保健医療学特別研究

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	平木 民子(Tamiko Hiraki)								
授 業 の 目 的	1年次演習で設定した自己の研究課題に沿って研究計画を立て、さらに研究遂行に関わる諸条件を整えて研究計画書の完成度を高める。さらに、研究計画書に基づいた具体的な研究方法の実行に関わるデータ収集技術の精錬を図りつつ、研究を進める中で生じる疑問や課題の解決のためのディスカッションを重ねながら、研究展開を推進する。このプロセスの中で、フィールド調査から得られたデータを分析し、研究課題についての考察を深め、論理一貫性のある修士論文を完成させる。								
授 業 の 進 め 方	ゼミナール形式で進める。学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を深めていく。授業内容及びスケジュールについては、研究の進捗状況によって調整する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～8	研究計画書の修正および完成	①文献検討の経緯と結論を論理一貫性のある文章にする。 ②研究方法の学習を深め自身のデータ収集とデータ分析に関わる技術の精度を上げる。 ③倫理的配慮を基準に沿って自己の研究遂行に関して具体的記述する。						
	9～35	フィールド調査およびデータ収集とその報告	④データ収集の経過を報告し、データ収集の過程で生じた疑問や課題とその解決策について検討し討論する。						
	36～45	データ分析	⑤データ分析の結果を報告し、分析結果の適切性を高めるために、必要に応じて他の院生と討論しながら、教員の助言指導を受ける。 ⑥研究目的に応じて結果を明瞭に記述し、記述した結果に基づいて考察の論点を検討する。						
	46～68	結果の記述と考察	⑦必要十分な文献を用いて研究意義に対応する考察を深める						
	69～75	論文完成	⑧一貫性・論理性のある議論が展開されているか検討し、指導教員の助言指導を受けて記述し、他の教員の助言も受けながら論文の完成度を上げる。						
教 科 書	随時提示する								
参考書・参考資料等	随時、提示する								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー									
受講上の留意事項									

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)								
授 業 の 目 的	地域精神看護学演習での学習をさらに洗練し、メンタルヘルスに健康問題をもつ人とその家族ならびに彼らを取り巻く人々に関連した学生個々の研究テーマにそって、文献レビュー、研究計画や研究結果を報告しながら、随時、討議を重ねていく形式で進める。なかでも、データの集計と分析の学習を実際のデータを用いて解析する演習を重視しつつ、その技法を習得することをめざす。研究の質を高めるために、学会発表や研究会における発表、ディスカッションを通して学問に向けての基本的態度を養いつつ、これらのプロセスを通して、修士論文の完成を目指す。								
授 業 の 進 め 方	講義と演習で進める。 学生によるプレゼンテーションを中心に進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス							
	2～3	研究課題の明確化	1) 要約した文献レビューをさらに深める。						
	4～8	研究計画書作成	2) 地域精神看護学演習で作成した研究計画書案について、教員の指導を受けながら、また他院生参加のもとでプレゼンテーションを行いながら研究計画書を完成させる。						
	9～45	研究実施	3) 研究の進行に伴い、進捗状況を教員と他院生にプレゼンテーションを行い、随時、教員の指導を受けながら研究を進める。その際、中間報告会で発表を行い、評価修正する。						
	46～68	修士論文執筆	4) 研究成果を修士論文にまとめる。						
	69～75	修士論文の完成	5) 研究成果の発表を置かない批評を受け、研究の精度を高めた後に、最終的に修士論文を完成させ提出する。						
教 科 書									
参考書・参考資料等	随時、指導教員が提示する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項	1. 1回の授業時間:90分 2. 柔軟な発想で、何よりも研究を楽しむことを期待します。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)								
授 業 の 目 的	実践的研究課題に取り組み、修士論文が完成に向かう能力を養うと共に、地域・在宅看護における健康と自立支援の実践知を蓄積し地域還元できる実践能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	研究課題の絞り込みから研究発表までに学生の研究進度に応じて進めていく								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	研究計画書作成	各自研究テーマを自主的に選択し、研究指導する。						
	3～15		各自の研究計画を推敲する。						
	16～22	データ収集・分析	研究過程で適時指導を受けたり他院生と討議したりする。						
	23～45		中間報告会で発表						
	46～52	論文作成	研究成果を修士論文形式にまとめる。						
	53～60								
	61～68	論文発表	研究成果を発表する。						
	69～75		研究成果の発表で、批評を受けて、研究の精度を高め最終的に修士論文を完成させて提出する。						
教 科 書	適時、指導教員が提示する。								
参考書・参考資料等	適時、指導教員が提示する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時対応する。								
受講上の留意事項	時間割の講義・指導日に基づいて、日時を各自調整して出席する。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	吉本 知恵(Chie Yoshimoto)								
授 業 の 目 的	加齢や疾患による健康問題を抱える高齢者およびその家族、それらの人々に関わる看護職に関する研究課題について、研究のプロセスにそって研究を行い、修士論文を作成する。このプロセスを通じて、老年看護学の発展に寄与できる研究能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	学生のプレゼンテーションを基に、討議・検討しながら進め、以下の目標を達成する。 1. 研究課題に適した研究方法を用いて、研究を計画し、それを実施できる。 2. 得られた結果を考察し、一貫性のある論文としてまとめることができる。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2~10 11~50 51~68 69~75	ガイダンス 研究計画書の修正・完成 研究の展開 修士論文の作成 研究成果の発表 修士論文の完成	ガイダンス 1年次の演習で作成した研究計画書の修正および完成 研究計画書に基づくデータ収集およびデータ分析 ゼミ検討会・中間報告会での発表および修正 修士論文の作成 研究成果の発表および修正 修士論文の完成および提出						
教 科 書	看護研究 原理と方法(医学書院)								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	研究室への連絡により、時間調整します。								
受講上の留意事項	授業スケジュールは、研究の進捗状況に応じて適宜変更します。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	松村 恵子(Keiko Matsumura)								
授 業 の 目 的	次世代育成看護学分野における文献検討の充実を図り、看護実践から看護学的知見を導く研究方法を探究し、健康と自立の支援をめざした看護の実践と理論と研究が有機的に連動して社会に還元できる修士論文の完成をめざすことを目的とする。								
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材(パワーポイント、DVD、VTRなど)を用いる。 ・研究に関する自らの考えをまとめ報告し討議する。 ・特別研究を基盤とした修士論文を完成する。 								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～7	1. 研究の構想	<ul style="list-style-type: none"> ・研究デザイン ・研究案、倫理的問題 ・文献クリティーク ・理論とサンプリング 						
	8～15	2. 研究計画書の作成 修士課程での研究の到達水準	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の推考 ・研究計画発表後の吟味・検討 						
	16～22	3. 研究の展開 —第一段階—	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画と展開方法 						
	23～45	4. 研究の展開 —第二段階—	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に基づいた展開の吟味 ・研究成果の予測 ・帰納的・演繹的意味づけの導き方 ・中間報告会の評価 						
	46～52	5. 修士論文の作成 —第一段階—	<ul style="list-style-type: none"> ・主要概念と理論体系の明確化 ・論文を体系的に構成 						
	53～60	—第二段階—	<ul style="list-style-type: none"> ・看護界に貢献できる内容の確認 						
61～68	—第三段階—	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文を完成後、自らの今後の課題を明確化 							
69～75	6. 修士論文の完成と提出	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文審査を受けての対応 ・修士論文発表会(最終試験) 							
教 科 書	なし								
参考書・参考資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1 李 節子著、看護研究ころえ帳 第2版、(医歯薬出版)2013. 2 足立はるゑ著、看護研究サポートブック、(メディカ出版)2007. 3 アン・J.デービスタ他著、看護倫理 日本文化に根ざした看護倫理とは、(医学映像教育センター)2007. 4 戈木クレイグヒル滋子/編、質的研究方法ゼミナール、(医学書院)2008. 5 Catherine H.C.Seaman Phyllis J.Verhonick著、西垣克 監訳、松村恵子訳、看護研究のすすめ方(第14・16章)(医歯薬出版株式会社)1996. 6 横山美江 編著、よくわかる看護研究の進め方・まとめ方、(医歯薬出版)2011. 								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	・在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。								
受講上の留意事項	目的意識を持ち主体的に探究し、学問に対する充実感を高め、学識が深まることをめざしている。看護学研究としての完成度が高く静謐性のある修士論文をめざしている。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	榮 玲子(Reiko Sakae)								
授 業 の 目 的	看護学および助産学の視点から、ライフサイクル各期における女性、母子および家族への健康支援、看護援助に向けての研究課題を明確にし、健康支援および看護実践を研究的に探求する。 1. 女性、母子および家族に関する研究課題について看護学・助産学の理論的視点から分析できる。 2. 研究プロセスを通して看護研究の基本、倫理性を学び、研究論文として論述できる。								
授 業 の 進 め 方	研究の各段階において討議・検討しながら進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～4	研究課題の明確化	文献検討による課題・問題の分析と研究課題の検討						
	5～10	研究計画書作成	研究計画書作成と査定・調整						
	11～50	研究の展開	研究計画の遂行 研究計画書に基づくデータ収集と分析 研究報告会での発表と評価・修正						
	51～70	論文作成	論文の作成						
	71～73	成果発表	研究成果の発表と修正						
	74～75	論文完成	修士論文の完成と提出						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	適宜、提示・紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	特に設定はしないので、随時対応する。								
受講上の留意事項	授業スケジュールは、進捗状況に応じて適宜変更します。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)								
授 業 の 目 的	次世代の担い手である子どもとその家族に焦点をあて、子どもと家族の健康と自立の支援をめざした看護の実践について研究的に探求し、社会に還元できる修士論文が完成できることを目的とする。また、この研究課程を通して、小児看護学領域の看護の発展に寄与できる基礎的能力や研究者としての態度を学習する。								
授 業 の 進 め 方	ゼミナール形式で進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2～9 10～15 16～45 46～68 69～75	ガイダンス 研究課題の明確化 研究計画書の作成 研究の展開 論文作成 研究成果の発表	ガイダンス 文献検討を通して、研究の意義や背景、研究課題を明確にしなが ら、研究テーマを絞り込む。 研究計画書を作成する。 研究計画書に沿って研究をすすめる。 研究成果を修士論文にまとめる。 研究成果の発表で、批評をもとに研究の精度を高め論文を完成させ る。						
教 科 書									
参考書・参考資料等	随時、紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー									
受講上の留意事項	1回の授業時間:90分 進捗状況に応じて、適宜変更する場合がある。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	塩田 敦子(Atsuko Shiota)								
授 業 の 目 的	<p>(1) 生体機能検査学を用いた代替医療のEBM検証:性差医療、全人的医療の観点から代替医療が注目されてきている。漢方薬、鍼灸、アロマテラピー等には西洋薬にない効果があることが知られているが、エビデンスの報告が少ない。眼動脈、橈骨動脈の超音波血流ドプラー法、サーモグラフィー、末梢血管脈波、種々の自律神経検査等を用いて、冷えや血流改善効果を解析し、代替医療の効果を実証するようなエビデンスを得たい。それらの抗ストレス効果についても自律神経検査による解析を考えている。</p> <p>(2) 生殖補助医療に関する研究:生殖補助医療の進歩はめざましく、体外受精においては凍結融解胚移植や胚盤胞移植が当たり前となり、受精卵の胚発育やcompactionについてもインキュベータ内で経時的に観察することも可能になっている。不妊治療に携わる病院の協力を得て、受精卵を観察することで良好胚あるいは妊娠率の向上に寄与する因子を検索する。</p>								
授 業 の 進 め 方	研究の各段階において討議・検討しながら進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2~3 4~6 7~10 11~45 46~65 66~70 71~75	ガイダンス 課題の明確化 研究計画書作成 研究の展開 論文作成 成果発表 論文完成	ガイダンス 文献検討、分析、研究課題の選択 研究方法の検討 研究計画書作成 研究計画の実施、適宜報告、データ解析、指導を行う 中間報告会で発表 必要に応じて修正、追加 修士論文の作成 研究結果の発表 必要に応じて修正、追加 研究結果の総合的なまとめを行い、修士論文を完成し、提出						
教 科 書	研究テーマに沿って適宜紹介する。								
参考書・参考資料等	適宜文献、資料等紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問・相談を受け付けます。								
受講上の留意事項	授業スケジュールは、進捗状況に応じて適宜変更する場合がある。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	佐藤 功 (Katashi Satoh)								
授 業 の 目 的	現在、日常生活に基づく習慣や食生活、及び嗜好と関連して起因する疾患との係りを解析することが必要となっている。保健医療学はその関係を分析し、一般住民が健康に対する概念、実践方法を自立・自覚して取組めるよう指導する学問の一分野である。特に嗜好とされる喫煙が深く関連する疾患が多く、青年期から成人期における喫煙行動に対する意識や喫煙行動の解析、禁煙を考える要因や背景の解析などを学習する。それにより、研究計画、実践方法を討論ならびに解析し、さらに文献検討を行い、患者教育や看護支援への取組み方の開発能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	1回の講義時間:90分 講義および課題についてプレゼンテーションを行い学生間の討議を行います。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～7	総論	ガイダンス 学習の方法と講義予定						
	8～15	各論	院生が研究テーマを自主的に選択し研究指導を受ける						
	16～22		リサーチミーティングから各自の研究計画を遂行し、実施、分析、考察して進める。						
	23～45		研究過程は適宜指導を受けたり、指導教員や院生他の参加の元で、自ら報告し指導を受ける。						
	46～52		研究成果を修士論文にまとめる。						
	53～60		研究成果を修士論文にまとめる。						
	61～68		研究成果を発表する。						
	69～75		研究成果の発表に関して質疑、討論を経て研究の成果を高めた後に、最終的に修士論文を完成させ提出する。						
教 科 書	特になし								
参考書・参考資料等	日本禁煙学会編. 禁煙学 改訂第2版、(南山堂) 2010 本田憲業編. 見て診て学ぶ肺癌の画像診断、(永井書店) 2007 日本禁煙学会. http://www.nosmoke55.jp/								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	喫煙・禁煙に関し、自ら学ぶ、社会における環境に注視する姿勢を保つこと。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	内海 知子(Tomoko Utsumi)								
授 業 の 目 的	がん看護および療養支援看護学領域における特定の研究課題を見出し、看護実践に寄与することができる知見を探求し、修士論文を作成することを通して、基礎的研究能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	1年次の演習で設定した学生個々の研究課題をもとに、実行可能性や倫理性の検討、最新の文献検討を加えながら研究計画書を完成させる。これと並行して、データ収集と分析のための知識と技術を習得する。これらの過程において、疑問や課題についてディスカッションを重ねながら、研究を進める。さらに、研究の各段階において、研究目的に立ち返りながら他者への報告と意見の陳述、他者からのクリティークを受けることで、研究課題についての考察を深めるだけでなく、論理的思考、言語的表現を養い、修士論文を完成させる。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～10	研究計画書の修正と完成	研究の背景と文献検討についての再検討 データ収集と分析のための知識と技術の学習 倫理的検討事項の再検討 ゼミでのプレゼンテーション						
	11～20	データ収集	研究計画書の完成(内容の洗練、論理性、一貫性の確認) フィールドおよび大学の倫理審査の申請 フィールドにおけるキーパーソンとの打ち合わせ						
	21～40	データ分析と結果の記述	データの継続比較のための中途報告と検討 教員の助言指導による真实性を担保した分析 分析結果とその効果的な提示についてのプレゼンテーション						
	41～75	論文完成	スケジュールに沿って教員の指導を受けながら論文作成 定期的なゼミでのプレゼンテーション						
教 科 書	随時紹介する。								
参考書・参考資料等	随時紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	緊急時以外はメールでアポイントを取ってもらい対応するが、報告や相談は随時メールを活用して行う。								
受講上の留意事項	各段階でのプレゼンテーションは、他領域の教員や院生と一緒にを行う。授業日程等は、相互の都合と学習の進捗状況で柔軟に対応するので、家庭や仕事とのバランスを取ることを。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	野口 純子(Junko Noguchi)								
授 業 の 目 的	助産学分野における文献検討の充実を図り、女性のライフサイクル及びマタニティサイクル各期の健康支援などに関連する問題や課題を抽出し、助産学の視点から自己の研究課題を明確にして、研究計画や研究実践について個別に討論するプロセスを通じて研究指導を行い、修士論文作製を支援する。								
授 業 の 進 め 方	研究の各段階において、討議・検討しながら進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～4	研究課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・文献検討による課題、問題の分析と研究課題の明確化 ・研究計画書の作成 ・研究計画書に基づきデータ収集の確認 研究成果の予測 中間報告会での発表・評価(必要に応じて修正) 						
	5～10	研究計画書の作成							
	11～50	研究の展開							
	51～70	修士論文の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を修士論文形式にまとめる ・研究成果の発表と修正 ・研究成果の発表で批評を受けて、研究の精度を高めた後に修士論文を完成し提出する 						
	71～75	研究成果発表 修士論文完成							
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	D.F.ポートルック他著 近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法(医学書院) 他は、研究題目によりその都度紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	相談がある場合には、事前に連絡を取ってください。								
受講上の留意事項	特別研究の時間配分は、研究の進捗状況に応じて適宜変更する場合がある。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	片山 陽子(Yoko Katayama)								
授 業 の 目 的	在宅看護学領域における知見や自らの問題意識を基に、学生自身の看護実践経験と学際的アプローチを統合し、在宅看護学実践の質の向上や在宅ケアシステムの構築に貢献する学術論文の作成と公表する能力を養うことを目的とする。								
授 業 の 進 め 方	<p>授業は、学生主体で討議やプレゼンテーションなどを重ねて、研究課題を論考する能力が育成できるようにすすめ、以下の目標を達成する。</p> <p>1. 在宅看護学領域における実践的課題について、研究課題の焦点化、文献レビューと研究方法適用に関する検討を重ね、科学的思考をもって一連の研究過程に取り組める。</p> <p>2. 研究プロセスをとおして、科学研究に必要な倫理を学び、その姿勢を養う。</p> <p>3. 授業や学会発表の機会をとおして、研究のプレゼンテーションについて学ぶ。</p>								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～5	研究課題の明確化	文献検討や資料分析、臨床課題の考察と討議をとおして、研究課題を明確化						
	6～10	研究計画書の作成	研究目的の明確化と目的に適した研究デザインの選定を行い、研究計画書を作成						
	11～50	研究の展開	研究の展開：ゼミでの検討会や中間報告会での発表をとおして評価と修正、研究計画の遂行						
	51～75	論文作成と公表	論文の作成 研究成果を公表し、評価と修正のうえ修士論文を完成						
教 科 書	特に指定はしない								
参考書・参考資料等	授業において適宜、紹介する								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時対応する。面接については、事前に連絡をとり日程調整することが望ましい。								
受講上の留意事項	特別研究の授業展開は、進捗状況によって適宜変更します。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	合田 加代子(Kayoko Gouda)								
授 業 の 目 的	自らの地域看護実践活動を通して見出した問題意識を研究課題に転換し、その課題に対して公衆衛生看護の視点から研究的に取り組み、修士論文を作成する。このプロセスを通じて、公衆衛生看護学の発展に寄与できる研究能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	教員及び他の受講生とのディスカッションを重ねながら研究を進める。 受講生のプレゼンテーションを中心に進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 2～10 11～40 41～70 71～75	ガイダンス 研究計画書作成 研究計画の遂行 論文作成 論文発表	ガイダンス 1年次の演習で作成した研究計画書を修正し完成させる。 中間報告会で発表を行い、評価・修正する。 研究計画を遂行する(データ収集、データ分析)。 研究成果を論文にまとめる。 研究成果を発表し、批評を基に修正し論文の精度を高める。 修士論文を完成させ提出する。						
教 科 書	随時、指導教員が提示する。								
参考書・参考資料等	随時、指導教員が提示する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	日時等調整して随時対応する。								
受講上の留意事項	時間配分は、研究の進捗状況に応じて変更する場合があります。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	松村 千鶴(Chizuru Matsumura)								
授 業 の 目 的	看護実践における看護上の諸問題を見出し、その研究課題について研究計画から論文作成・プレゼンテーションまで全研究過程を遂行し、研究の基本的方法を学ぶ。このプロセスの中で、学問としてのケア技術を確立・進化させる新たなエビデンスの知見の発見を目指す。								
授 業 の 進 め 方	自身の研究課題についてプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。授業は研究の進捗状況によってスケジュールを調整して行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～10	研究計画書の修正・完成 データ収集方法の習得	1) 生理学的実験研究デザインによる研究を遂行するために、研究方法を具体化し実験プロトコルを検討する。 2) 予備実験を遂行しながら実験プロトコルを完成させる。						
	11～40	研究計画に沿って実験を実施	3) 本実験・量的データの収集						
	41～60	結果の分析	4) データ分析・討議						
	61～75	論文完成	5) 論理性のある一貫した論文作成						
教 科 書	随時、提示する。								
参考書・参考資料等	随時、提示する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	日時を調整し、随時対応する。								
受講上の留意事項	研究課題が解き明かされる面白さを体験してみましょう。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	平川 栄一郎(Eiichiro Hirakawa)								
授 業 の 目 的	発癌について、形態学的、生化学的、分子生物学的手法を用いて解析していく。病理病態学的視点から、問題点や課題を明確にした上で研究指導を行い、分子病理学的に妥当性と信頼性に基づく斬新な修士論文を作成するよう指導する。								
授 業 の 進 め 方	その回ごとのテーマを決めて、参考図書や最近の論文をもとにディスカッション形式で授業を進めていく。そのため、事前に参考図書や論文の予習が必要である。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～10	総論	ガイダンス、各自の研究テーマについて研究の方法論、結果の解析法について指導を受ける。						
	11～20	リサーチミーティング	リサーチミーティングから、各自の研究計画について実施、分析、考察を行う。						
	21～40	リサーチミーティング	研究過程は適時指導を受けたり、リサーチミーティングの過程で報告、指導をうける。						
	41～50	まとめ	研究成果を修士論文形式にまとめる。						
	51～60	発表	研究成果を発表する。						
	61～75	総括	研究成果の総合的なまとめを行い、最終的に修士論文を完成して、提出する。						
教 科 書									
参考書・参考資料等	研究過程で適宜紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時 メール: hirakawa@chs.pref.kagawa.jp								
受講上の留意事項	1回の授業時間: 90分 時間割の講義・指導日に基づき、日時を各自調整して出席すること。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	樋本 尚志(Takashi Himoto)								
授 業 の 目 的	肝疾患は、様々な臨床検査によって診断されたり、肝機能や肝臓予備能が評価されたりするが、肝疾患の発症機序や肝障害のメカニズムについては依然不明な点が多い。本研究では、肝疾患の病態を解明するのに必要な臨床検査の有用性について検討していく。研究領域は(1)肝疾患において出現する様々な自己抗体の臨床的意義、(2)肝疾患におけるメタボリックシンドロームと自己免疫現象との関連、および(3)肝疾患における微量元素血行動態と糖・脂質代謝異常との関連、のなかから1つ選択し、研究活動を行っていく。この過程をとおして、様々な分子生物学的手法を習得するとともに、実際の研究活動の進め方についても学習することを目的とする。								
授 業 の 進 め 方	まずは、研究課題を選択し、その領域で行われている最新の知見について論文調査する。それらの知見を把握したうえで、実験テーマを決定する。実験テーマの決定後は、具体的にどのような実験が必要か綿密な実験計画書を作成し、指導教員の添削を受ける。その実験計画書に従って研究活動を開始する。実験結果についてはこまめに指導教官に報告し、その実験結果をふまえて実験計画の軌道修正を行う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	研究テーマ	ガイダンスおよび研究テーマの決定						
	3～6	文献調査	研究テーマに関連する最新の知見について文献検索を行う。						
	7～9	研究計画	研究計画書を作成し、実験に必要な器具や試薬の準備を行う。						
	10～64	研究活動	研究計画書に従って研究活動を開始する。実験結果については、適宜指導教官に報告し、助言を得る。その助言に従って、実験を継続あるいは軌道修正して研究活動を再開する。						
	65～69	実験データ解析、集計	研究活動によって得られたデータを集計、解析する。						
	70～75	修士論文作成	修士論文の作成に取り掛かる。						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項									

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)								
授 業 の 目 的	臨床血液検査学分野における実践的な文献検討をもとに、研究テーマについての研究を行い、修士論文を作成する。								
授 業 の 進 め 方	論文検索、研究テーマ、研究計画、研究実践、論文、発表のあらゆる過程において、随時、討議を重ねながら、基礎的な研究能力を高めるように進めていく。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	ガイダンス	研究の背景および研究課題の明確化						
	3～5	文献検索	先行研究を含めた文献検索と研究方法について						
	6～7	研究計画	研究計画書の作成						
	8～45	研究実施1	研究計画の実施、報告、討議 データ収集、解析 中間発表、 研究計画の修正および追加						
	46～60	研究実施2	研究計画の実施、報告、討議 データ収集、解析 追加文献検索						
	60～70	修士論文	論文作成						
	71～75	まとめ	修士論文の完成と発表準備						
教 科 書	特になし。								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項									

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	奥田 潤(Jun Okuda)								
授 業 の 目 的	感染症を引き起こす病原細菌は病原性を発現するために必要なさまざまな病原因子や、予防や治療として用いられる消毒薬や抗菌薬に対する耐性因子をもっている。そのなかで、研究対象として、病原細菌が針状のIII型分泌装置を用いて宿主細胞に直接注入するエフェクタータンパク質や病原細菌が菌体外に分泌する外毒素などの病原因子、あるいは、消毒薬や抗菌薬に対する耐性に着目し、現在その作用機序等の実態がまだ解明されていないものにつき、研究を進める。そのような研究活動を通じて、病原因子や薬剤耐性に関する基礎的研究能力を養うとともに、感染症検査、予防、治療に応用することのできる未知の知見を得ることを目的とする。								
授 業 の 進 め 方	先行研究の論文講読を通して、綿密な研究計画を作成し、それに沿って実験を行う。得られた実験結果をデータ報告会で発表し、担当教員や共同研究者との討論を繰り返すことにより、科学的思考力を養う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	研究テーマ	ガイダンスと研究テーマの選択						
	3～6	文献調査	研究テーマについて先行研究の調査と研究目的・方法について検討						
	7～9	研究計画	研究計画を作成し、研究に必要な試薬等の準備						
	10～64	研究活動	研究計画に沿って、指導教員の指導を受けながら研究を行う。適時、研究報告と関連文献の紹介を行い、必要に応じて研究面での軌道修正						
	65～69	まとめ	研究内容のまとめ、指導教員による指導						
	70～75	修士論文作成	研究発表と修士論文の作成						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	適時、指導教員が提示する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	研究内容については、研究の進捗状況と学生の希望を考慮し決定します。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必須	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)								
授 業 の 目 的	遺伝子検査学としてテーマを確定する。自らが研究仮説を立て、検証していく実験計画を立案する。研究計画に沿って、研究を実践する。実験が主となるので安全性の確保そして研究活動における倫理的問題についても学ぶ。最終的に科学的検証を行い論文にまとめる。								
授 業 の 進 め 方	研究計画に関しては学生主導で立案し、それを基に学生主導で実験を進めていく。実験ノートに記載するようにして、毎回指導教員の確認を受けることとする。得られたデータを科学的に検証し、指導教員の添削指導を受けながら学生主導で修士論文を作成する。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～10	研究テーマ 文献調査	おおまかな研究テーマの選定 先行研究調査と主要論文の選別						
	11～20	論文精読 論文精読まとめ	主要論文精読 該当分野の問題点や疑問点などを指摘しまとめる						
	21～30	口頭発表 研究計画の立案	プレゼンテーション形式での指導教員への報告 文献調査結果に基づいた研究テーマの確定と研究計画の立案						
	31～40	研究活動① 中間報告①	研究計画に沿った実験の遂行 研究結果報告と問題点や課題の検討						
	41～50	研究活動② 中間報告②	軌道修正後の研究計画に沿った実験の遂行 研究結果報告と問題点や課題の検討						
	51～61	データのまとめ 最終報告	データ解析 プレゼンテーション形式による指導教員への最終報告						
	61～70	概略の作成 原稿作成	原稿の作成のためのアウトラインを作成 アウトラインを基に原稿の作成						
	71～75	論文審査の準備 研究成果の発表	修士論文として発表						
	教 科 書	適宜紹介する。							
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	適宜受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。								
受講上の留意事項									

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	立石 謹也(Kinya Tateishi)								
授 業 の 目 的	脂質代謝異常症、メタボリックシンドローム、糖尿病などの代謝疾患は動脈硬化進展に重大な影響を与え、一方で慢性腎臓病も動脈硬化性疾患の危険因子であることが解明されつつある。これら脂質代謝異常症と糖尿病、腎臓病との関連について研究を行い、研究の進め方、実験手技、解析方法、論文の作成方法を習得し、修士論文の完成を目指す。								
授 業 の 進 め 方	研究テーマの決定、文献の検索、研究の計画(プロトコルの作成)、研究の実践、論文作成、研究発表のあらゆる過程において、担当教員との討議を繰り返しながら、基本的な研究能力や科学的思考力を高められるように進めていく。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～2	ガイダンス	研究テーマ・研究課題を明確にする。						
	3～10	文献検索	文献検索とリサーチミーティングを行い、研究計画をたてる。						
	11～50	研究活動	研究計画に従い、実験を実施しデータの解析を行う。						
	51～70	論文作成	研究成果を修士論文にまとめる。						
	71～75	成果発表と修士論文完成	研究成果をまとめて、発表を行う。 発表での批評を受けた部分を再考し、修士論文を完成させる。						
教 科 書	特になし								
参考書・参考資料等	研究過程で適宜紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	授業スケジュールは研究の進捗状況に応じ、適宜変更する。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	多田 達史(Satoshi Tada)								
授 業 の 目 的	糖・脂質代謝、動脈硬化に関連する疾患の予防・早期発見、治療につながる新規臨床検査項目に関する研究を行い、分析技術的研究開発を目指す。								
授 業 の 進 め 方	文献的考察、ディスカッションを行い、実験計画やデータ整理を行う。得られたデータを考察し、追加実験を検討する。学会発表・論文作成を行っていく。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～10	研究計画	基礎的文献や資料について、調査、討議を通じて、研究目的、課題、方法を明確にする。						
	11～50	実験と考察	研究テーマに沿って実験を行う。 研究方法、結果の考察と課題について中間報告会で発表を行う。						
	51～75	論文作成と投稿	論文としての構成を検討する。研究成果を修士論文にまとめ、提出する。学会誌への投稿も検討する。						
教 科 書	特になし。								
参考書・参考資料等	適時、指示、紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時								
受講上の留意事項	進捗状況によって、スケジュール調整します。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	行正 信康								
授 業 の 目 的	生体防御システムである免疫機構は抗原特異的な反応が特徴となる。この特異性は、免疫細胞の分子遺伝学的な制御により担われている。免疫機能にはさまざまな個人差が存在し、特定抗原刺激における抗体産生量などに影響をもたらす。免疫応答の個人差という現象を、抗原特異的な免疫機能と関連させる研究を実施する。研究とは、目に見える現象の要因について仮説を立て、検証方法を組み立て、実際の検証により事実を積み重ね、真理に近づく作業である。科学的方法を実践することにより将来的な臨床検査分野のリーダーとなるような人材育成を目的とする。								
授 業 の 進 め 方	抗原特異的免疫応答に関する先行的研究論文の抄読、具体的な研究テーマの決定、検証方法論の確立、検証の実施、結果の解釈と考察を一連の作業として行い、関連学会等での発表を繰り返しながら科学的思考力・実践能力を養う。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～3 4～10 11～40 41～55 56～60 61～70 71～75	ガイダンス 文献検索 研究計画 研究の実施 結果解釈 研究の再検討 まとめ	研究テーマの例示と文献検索方法指導 先行研究論文の抄読 具体的研究テーマの決定と方法論の確立(実験環境の整備) 研究計画に沿った研究の実施 指導教員とのディスカッションの繰り返し 予備的研究結果のまとめと報告(学会発表等) 最終的な論文作成のための再確認・追加実験等の実施 研究発表と論文の完成						
教 科 書	特に指定しない。								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。また、自発的な文献検索を行う。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時。								
受講上の留意事項	具体的な研究テーマや研究方法については履修者と相談を続けながら決定する。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	加太 英明(Hideaki Kabuto)								
授 業 の 目 的	てんかんやパーキンソン病等の神経変性疾患の発症メカニズムの解明のため、疾患モデル動物を用いて研究を行う。また、これら疾患の発症進展に対して環境因子による酸化的障害が重要な要因の一つであることが明らかになってきていることより、環境化学物質や食品成分による発症や病態の進行もしくは予防効果について、生体の持つ活性酸素種の生成及び消去機構に対する影響を測定することにより解析する。								
授 業 の 進 め 方	文献を読みディスカッションを行いながら、実験・研究・学会発表・論文作成をおこなう。学会誌への投稿に際しては、必要に応じてアドバイスを受ける。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～10	研究の準備	必要な文献検索や資料を準備し、講読後、院生と討議を通じて、研究課題、研究方法を選択する。						
	11～60	実験の遂行と学会等への発表	研究課題に沿って実験を行う。得られた内容について中間報告会で発表を行う。批評やミーティングを行いながら追加実験を行う。						
	61～75	論文の作成と投稿	修士論文としてまとめ、提出する。さらに、学会誌等に投稿する。						
教 科 書	なし。								
参考書・参考資料等	随時指示する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時。捕まらない場合は“kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp”へmail。								
受講上の留意事項	実験研究は指定された時間どおりにできるとは限らない。事前に担当教員と実験スケジュールについて相談し調整する。								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	古山 達雄(Tatsuo Furuyama)								
授 業 の 目 的	エネルギー代謝の調節機構は肥満や成人病と深く関わっている。同時に寿命のコントロールとも深くかかわることが知られてきた。ここではインシュリンシグナル系に焦点を絞りその下流で働いている転写因子の機能を明らかにすることを目的とする。器官特異的にこれらの遺伝子を欠損したマウスを用いて、欠損により異常が生じるか否かを様々な角度から検討し、異常が見つかった場合には組織学的、生化学的な手法を用いて異常の起こる原因の解明を試みる。特に血管系と神経系に注目して解析を行う。研究を進めていく過程で文献の講読、研究の進め方、実験手技、解析方法、論文の書き方などを身に付けていく。								
授 業 の 進 め 方	個人指導をおこなう。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～5	文献を講読	研究課題の背景について必要な文献を講読し研究課題について理解する。						
	6～10	研究計画の作成	研究計画を立てる。						
	11～65	研究遂行	計画に従って研究を遂行する。毎週行う文献講読会に参加し、随時、進展状況を報告する。必要に応じて計画を変更していく。						
	66～75	修士論文の作成	結果をまとめ、修士論文の作成を行う。						
教 科 書	特に指定しない								
参考書・参考資料等	適宜紹介する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時、研究室35								
受講上の留意事項									

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	ジャンジュア ナジマ(Najma Janjua)								
授 業 の 目 的	This research will aim at elucidating the biochemical and genetic mechanisms of epilepsy using the "family study" approach. The work will involve investigating homogeneous groups of epileptic patients with a focus on controlling factors that have been attributed to discrepancies observed in previous studies using this approach.								
授 業 の 進 め 方	The course of studies will begin with topic selection in conjunction with reading of relevant literature. This will be followed by a comprehensive review of the literature in the field; writing of a research proposal with clear goals and details of methods to be employed; conducting the proposed experimental work; analyzing the data; writing the thesis; and possible submission of the work for presentation at a conference and/or publication in a journal.								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1 - 4	Topic selection	Doing background study and selecting a research topic in consultation with the supervisor						
	5 - 10	Writing the research proposal	Carrying out a thorough literature review and writing a research proposal with clear rationale and goals, details of methodology, and step by step plan						
	11 - 60	Experimental work	Data collection and carrying out the experiments in accordance with the proposed research plan						
	61 - 75	Data analysis, thesis writing, conference presentation	Writing the dissertation and submitting the work for presentation at a conference and/or publication in an appropriate journal						
教 科 書	There is no one specific prescribed textbook for this research. Various materials from multiple resources will be read as applicable to the given research.								
参考書・参考資料等	References will be recommended by the teacher and/or searched by the students themselves as related to their research.								
成績評価の方法	Evaluation will be based on students' overall performance throughout the course of the study(topic selection, research proposal writing, project planning, conducting experiments, participation in discussions, etc.); result of the thesis examination; and conference presentation(s) and publication(s) if any.								
オフィスアワー	By appointment								
受講上の留意事項	Students will be encouraged to present their research at one or more regional, national or international conferences in the second year of their studies.								

保健医療学特別研究(Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	10.0	時間数	150
担 当 教 員	山主 智子(Tomoko T. Yamanushi)								
授 業 の 目 的	機能性食品の摂取による身体機能への影響を解明することを目的とする。既に何らかの機能が報告されている食品や栄養素等に焦点をあて、身体機能への影響を生理学的、生化学的、形態学的手法により解析し、これら栄養素摂取の身体への効果を検証する。								
授 業 の 進 め 方	先行研究の論文購読及びディスカッションにより、研究テーマについて理解を深める。実験を行い、結果を考察し、研究仮説を検証してゆく。さらに、学会での発表、及び修士論文の仕上げにより、研究のプレゼンテーションについて学ぶ。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1～5	研究テーマ	研究論文を購読しながら、研究テーマの背景について講義する。これにより具体的な研究テーマを決定する。						
	6～10	研究計画	先行研究などから、研究テーマをさらに深く理解する。ディスカッションを行い、研究目的となる仮説及び具体的な実験計画について決定する。						
	11～55	実験研究	研究計画に従い、研究仮説を検証する実験を行う。随時、実験結果をまとめ、ディスカッションを行う。						
	56～65	研究結果	研究結果をまとめ、議論する。						
	66～75	研究のまとめ	修士論文をまとめ、完成させる。						
教 科 書	随時指示する。								
参考書・参考資料等	随時指示する。								
成績評価の方法	修士論文審査結果をもって成績とする。								
オフィスアワー	随時。 メール(t.t.yamanushi@chs.pref.kagawa.jp)でも受け付ける。								
受講上の留意事項	常にディスカッションを行い、理解を深め合いながら、研究を推し進めてゆく。								

課題研究

課題研究 (Thesis Research)									
必須・選択の区別	必修	学年次		学 期	通年	単位数	4.0	時間数	120
担 当 教 員	國方 弘子 (Hiroko Kunikata)								
授 業 の 目 的	精神保健医療福祉システム論、精神看護アセスメント論および精神看護セラピー、精神看護援助論で学んだ内容を踏まえて、精神看護の実践の中から研究テーマを取り上げ、研究プロセスをとって研究を行う能力を養う。								
授 業 の 進 め 方	講義と演習、研究の実施で進める。 学生によるプレゼンテーションを中心に進める。								
	回	項 目	内 容						
授業スケジュール	1	ガイダンス	1) アイデアについて、課題の絞込み						
	2	研究課題への道すじ	2) 問題の明確化						
	3~5	文献レビュー	3) 要約した文献レビューをさらに深める。						
	6~12	研究計画書の作成	4) 研究課題、研究課題の背景、研究の意義、研究目的、研究の枠組み、研究対象、データ収集手順と方法、測定用具の選定、データ分析方法、倫理的配慮、予算と進行スケジュールなどについて、教員の指導を受けながら、他院生参加のもとでプレゼンテーションを行いながら研究計画書を完成させる。						
	13~40	研究の実施	5) プレゼンテーションを行い、随時、教員の指導を受けながら研究を進める。						
41~58	論文作成	6) 研究成果を修士論文にまとめる。							
59~60	論文の完成	7) 研究成果の発表を行い批評を受け、研究精度を高めた後、修士論文を完成させ提出する。							
教 科 書									
参考書・参考資料等	随時、教員が提示する。								
成績評価の方法	修士論文の提出により評価する。								
オフィスアワー	金曜日								
受講上の留意事項	柔軟な発想で、何よりも研究を楽しむことを期待します。								